

第3次 あま市子ども読書活動推進計画

(素案)



基本理念
未来を拓く鍵を
君たちへ

はじめに

第3次 あま市子ども読書活動推進計画を策定するにあたり、まずは基本理念を設定しました。

「未来を拓く^{ひら}鍵^{かぎ}を君たちへ」

情報過多に生きる現代の子どもたちが、何をもってその道を選び、歩みを進めるのか、自らの人生を少しでも良い方向に向かわせることができるヒント、つまり未来への鍵が「読書」には隠されています。そして「読書」は、子どもたちが大きな課題に直面した際、困難に立ち向かう知識を与え、自らの力で解決していくための手助けになるものです。

本計画は、子どもたちに対し、本を読みなさい！と読書を押し付けるものではなく、あくまでも子どもたちの視点に立ち、子どもたちが主体的に本を読み、読書習慣を身につける環境を整えるとともに、「読書」が子どもたちの未来を拓く「鍵」のひとつであるということを知ってもらうための計画でもあります。

本計画が、未来を切り拓く「*あまっ子」たちの生きる指針になることを願います。

最後になりますが、本計画の策定にあたりご尽力いただきましたあま市子ども読書活動推進計画策定委員の皆様をはじめ、アンケート及びヒアリング調査にご協力いただき、貴重なご意見をいただきました皆様並びに表紙及びイラストを提供して下さった愛知県立美和高等学校に対し、心よりお礼申し上げます。

令和6年4月

あま市教育委員会

教育長 伊藤 克仁

*あまっ子…自らの判断と責任で、諸課題に取り組むことができる力を備えた
あま市の子どもに対する親しみやすい名称（あま市教育立市プランより）

目 次

読書をオススメする理由 10 選	1
読書がくせになる「オススメ本の紹介」	2
おすすめしたい本のタイトル・シリーズ 一覧	6
本を読むようになったきっかけ	8
第 1 章 計画策定の背景と考え方	14
第 2 章 子ども読書活動の現状と課題	18
第 3 章 読書活動推進の基本方針	24
第 4 章 読書活動の推進のための具体的な施策	28
第 5 章 読書活動に関する理解と関心	36
第 6 章 子ども読書活動の推進体制	38
参考資料	40

○本計画の読み進め方

本計画は、巻頭に「読書をオススメする理由 10 選」から「本を読むようになったきっかけ」まで、0 歳～18 歳までの方が読書をするにあたって参考としていただきたい内容を掲載しております。

本計画の内容が、読書を始めるきっかけの一助になれば幸いです。

読書をオススメする理由10選

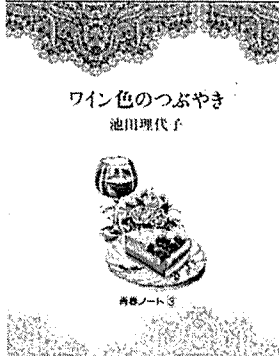
メリットは無限大

- その1 知らなかったことがわかる。
- その2 表現力が身につく。
- その3 正しい判断力が身につく。
- その4 趣味がひろがる。
- その5 難しい漢字が読めるようになる。
- その6 人生の目標が見つかる。
- その7 生き方を学べる。
- その8 困難を乗り越えるヒントがある。
- その9 未知の世界を知り、他者の考えに触れることができる。
- その10 創造力・想像力が養われる。



読書がくせになる「オススメ本（美和図書館蔵書）」の紹介

本にかかわっている方たちより



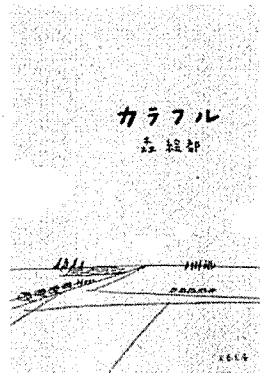
「ワイン色のつぶやき」 池田理代子/著 国土社

こちらは私が中学校の時に図書室で読んだ本です。今読み返したら、当時でも古い内容だなと思ったことまで思い出したのですが、古いのは出てくる事柄だけです。作品の絵そのままに、オスカルのような華やかな池田先生が、繊細で普遍的な悩みを率直に語っています。その誠実さにあらためて感動しました。



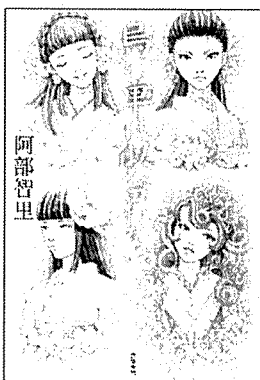
「きみの友だち」 重松清/著 新潮社

「友だちって何だろう？」誰もが一度は考えたことがあるのではないのでしょうか。この物語には8人の「きみ」が登場します。この物語を読む「きみ」は物語の中の「きみ」に自身の姿を重ねることでしょう。もしかすると胸が痛むこともあるかもしれません。「きみ」の周りにいる大切な「友だち」、その存在に気づかせてくれる一冊です。



「カラフル」 森絵都/著 文春文庫

生きる意味、自分らしさ、家族や友人との関係…誰でも一度は悩んだり、考えたりすることですが、それは決して無駄ではありません。少し視野を広げるとカラフルな世界が広がっていて、自分にも周りの人にも色々な一面やカラーがあり、あっていいんだと思わせてくれるような本です。



「鳥に単は似合わない」 阿部智里/著 文藝春秋

ヒトの姿と鳥の姿を持つ八咫鳥^{やたがらす}。彼らが支配する世界で次期君主“若宮”の皇后選びが始まりました。恋情・陰謀、様々な思惑を胸に競い合う4人の妃候補達、しかし肝心の若宮が現れないまま次々と事件が起きていく。果たして妃は誰に決まるのでしょうか――。

平安朝を彷彿とさせる世界観で繰り広げられる和風ファンタジーを是非お楽しみください。

「逆ソクラテス」 伊坂幸太郎/著 集英社

人は誰かの影響を受けずにはられません。自分がどう思うかより、周りがどう思うかを気にしてしまいます。一方的な決めつけや偏見という「先入観」と向き合うときに、「僕はそうは思わない」って言える人がどれくらいいるのでしょうか。心に残る名言が溢れていて、読み終わるとものの見方が変わり、自分の世界観が広がる一冊です。



「指輪物語」 J・R・R トールキン/著 瀬田貞二・田中朋子/訳 評論社

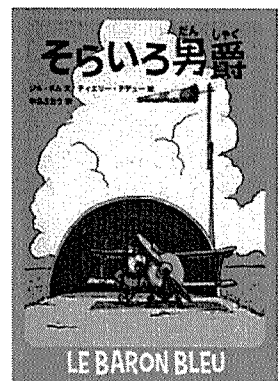
冥王サウロンの作った魔力を持つ指輪を軸に、多様な種族を巻き込んで物語を展開していく極上のファンタジーです。登場するキャラクターは多彩で、欲望や闘争が渦巻き、友情や愛で悪に立ち向かいます。はらはらドキドキが止まりません。1つの壮大な物語ですが、それぞれの登場人物に添った魅力的なおはなしの集合体でもあります。あなたの推しキャラをみつけてみませんか！



「そらいろ男爵」 ジル・ボム/文 ティエリー・デデュー/絵 中島さおり/訳 主婦の友社

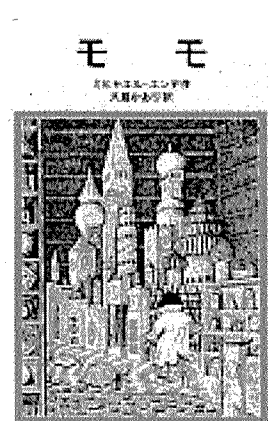
これは 100 年くらい前のお話です。そのころの戦争はまだ人が手で動かしていました。飛行機乗りのそらいろ男爵がしたことは・・・なんと・・・！！！！

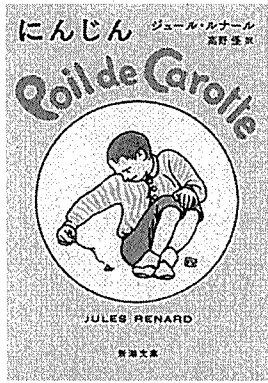
絵本なのであつという間に読めます。読後は拍手喝采！どこかの国のあの方に送ってあげたい！なにしろあの文豪トルストイの『戦争と平和』が出てくるんですから。2014年「サン＝テグジュペリ賞(絵本部門)」受賞作品です。



「モモ」 ミヒヤエル・エンデ/作 大島かおり/訳 岩波書店

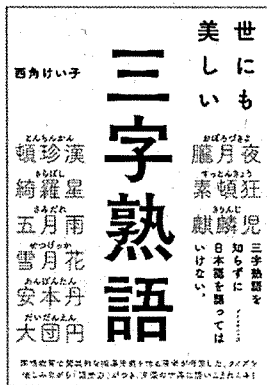
「いちどに道路ぜんぶのことを考えてはいかん、それはわかるかな？つぎの一步のことだけ、つぎのひと呼吸のことだけ、つぎのひとはきのことだけを考えるんだ。いつもつぎだけのことをな。」(本文より抜粋) ゆっくり進むほど早く着く、近づくと遠ざかる…エンデの綴る話は過去に起こったことのようにあり、将来起こることでもあります。タイパが気になる方にお勧めします。





「にんじん」 ジュール・ルナール/著 高野優/訳 新潮社

主人公のにんじんは、家族から冷たくあしらわれ誰からも愛されていないと苦しみながら毎日を送っています。主人公の性格がひねくれ者の性格で描かれているのは、この物語が作者の経験をもとに創作されたものであるからかもしれません。孤独を感じた時に読むと、これは自分だと共感する人も多いことでしょう。



「世にも美しい三字熟語」 西角けい子/著 ダイヤモンド社

三字熟語って知っていますか？真ん中一文字が空欄の問題形式になっています。漢字好きの人は必見です。「イケメンじゃなくて美丈夫と言ってみる。」、「日和見はダメ」、「この青二才！」、「一粒粒種の息子」、「不退転の決意」、「不世出の人物」、「彼は政界の風雲児」など、覚えた言葉で例文を作ってみましょう！頓珍漢なものにならないよう要注意ですが……。語彙を増やすと人生は万々歳です！



「私たちの世代は」 瀬尾まいこ/著 文藝春秋

コロナ禍の日々は子ども達には過酷な時間だったでしょう。学校に通う通わない、教育を受ける受けない、親から愛される愛されないなど子どもの姿を描く元教師の瀬尾さんの視線は細やかです。子どもは親が育てたように育つというより、自分が育ちたいように育っていくのだと感じました。親の私は日々学び器を大きくして、羽ばたくまでの子どもを支えたいですね。



「深夜特急」 沢木耕太郎/著 新潮社

インドのデリーからロンドンまでを乗り合いバスだけを使い継いで行くという酔狂な旅の本です。著者の「地球というのは自分の足で歩いたり、バスに乗ったりして把握できる大きさである。」という言葉に衝撃を受け、数か月後、自身もバックパックを背負ってネパールへ。それからの旅で学んだことは数知れません。読むと人生が変わる「本」です。

「とうちゃんのトンネル」 原田泰治/作・絵 ポプラ社

このお話は、作者原田泰治さんの体験に基づく実話です。戦後間もない頃、水を得るために父親が長い歳月をかけ、つるはし一本でトンネルを掘るという熱いお話です。父親の必死の行動と美しい親子愛が作者の素朴な絵と共に描かれています。



「図解 錬金術」 草野巧/著 新紀元社

この本は私にとって能動的に研究した初めての本です。「読め、読め、もっと読め、祈れ、働け、さらば見出さん」というのが錬金術師を志す者の格言だと書いてあります。読み切ると魔方陣で他人を思ったように動かすこともできるそうです。



「青空のおこう」

アレックス・シアラー/著 金原瑞人/訳 求龍堂

突然、交通事故で死んでしまったハリー。事故の前に姉と口喧嘩したままだった事が心残りのハリーは、幽霊になってこの世に戻ってきます。命の大切さや、常に相手の気持ちに立ち、感謝の気持ちを持って人と接する事の重要性が身に染みる感動の物語です。



美和図書館にある YA (ワイエー) コーナーに注目！！

美和図書館にある YA コーナーを知っていますか。ちなみに、YA とは Young Adult の略称で、おおむね 12 歳から 18 歳くらいまでのティーンズ世代の人たちを指す言葉です。

児童書では少し物足りないな、でも一般の本は難しそう…そんな中、高校生が手に取りやすい本を集めた場所が「YA コーナー」です。日本の小説や翻訳本、知識や進路の本など分野は多種多様！おすすめ本の POP (ポップ) もあり、本との出会いの場所になっています。ぜひお立ち寄りください。



コラム

おすすめしたい本のタイトル・シリーズ 一覧

本好きが選んだ！

この一覧については、図書館利用者アンケートにおいて「Q 若い人たちにお勧めしたい本は。」という問いに対する回答です。回答者の多くが小学生ということもあり、児童書とライトノベルが多くあります。特にライトノベルは、本好きな児童たちから人気が高い書籍であることがわかりました。

※アンケート結果をそのまま載せているため、書名に誤りがあります。

(児童書)

サバイバルシリーズ/星のカービィシリーズ/ワンピース/絶叫学級/なつみはなんにでもなれる/実験対決シリーズ/ドラゴンクエスト/ドラゴンクエスト 25th アニバーサリーモンスター図鑑/かいけつゾロリ/日本の歴史シリーズ/最強王シリーズ/大ピンチ図鑑/アルプスの少女ハイジ/小公女セーラ/松井秀喜の物語/三匹の子豚/長靴を履いた猫/学級まんが日本の伝記/太平洋で生き延びろ/水中最強ランキング/つばさ文庫カービィ/ポケモン空想科学読本/危険生物図鑑/最強王図鑑/おやつがほーいどっさりほい/日本史探偵コナン/チーズはどこに消えた/深海6500/すごすぎる天気図鑑/そうだすぎて気が遠くなる宇宙の図鑑/バルバルさん/中村哲物語/ぼくはここにいる/フェリックスとゼルダ/ほねほねザウルス/盲導犬サーブの物語

(児童文学/ライトノベル)

不思議駄菓子屋銭天堂/四つごぐらし/ハリー・ポッターシリーズ/僕らの七日間戦争/スズメの戸締り/時間割男子/5分後に意外な結末/マイクラフトシリーズ/本好きの下剋上シリーズ/ぼくらシリーズ/変な家/変な絵/化学探偵シリーズ/いちご同盟/難破船と人魚の秘密(上・下)/怖い話/ソードアート・オンラインシリーズ/魔法があるなら/青空の向こう/ランドオブストーリー/絶望鬼ごっこ/桜のような僕の恋人/あの花が咲く丘でまた君と出会えたら/恋愛嘘日記/怪獣8号/君のとなりで/1年間だけ/ラストサバイバル/チャリンコボーイ/君と100年分の恋をしよう/うちの執事が言うことには/春夏秋冬代行者/私の幸せな結婚/10年屋/嵐太郎/総長様/溺愛中につき/人生終了ゲーム/ウタイテシリーズ/遊園地脱出ゲーム/僕は猫のお医者さん/炎炎ノ消防隊/空飛ぶ教室/六兆年と一夜物語/青鬼/ブルーロック/僕のヒーローアカデミア/蜘蛛ですが何か/転生したらスライムだった件/暗号クラブ/科学探偵/ゴーストハント/空想科学読本/博物館の少女/おばけのレストランシリーズ/ひぐらしのなく頃に/アオのハコ/11匹の猫/絶望鬼ごっこ/スライム倒して300年知らないうちにレベルMAXになってました/わかおかみは小学生/エヴィーのひみつと消えた動物たち/五等分の花嫁/世界で一番透きとおった物語/大泥棒ホッツエンプロッツ/理花のおかしな実験室/天国までの49日間/ルビネコと星物語/15歳のテロリスト/夜が明けたら/君にいちばんに会いに行く/コンチキ号漂流記/宇宙のみ

なしご/絶体絶命ゲーム/怪盗レット/4年霊組/13歳のきみと/都会のトム&ソーヤ/急がばナナメ/車夫シリーズ/鳥に単は似合わない/翼はいつまでも/かいとうレッド/おちゃめなふたごシリーズ/クレヨン王国の十二月/放課後君がピアノをひいていたから/十五少年漂流記/ぼくはイエローでホワイトでちょっとブルー

(文学作品/小説)

君たちはどう生きるか/君の臍臓をたべたい/マジックツリーハウス/星の王子さま/赤毛のアン/あの花の咲く丘できみとまたあえたら/手袋を買いに/ごんぎつね/硝子塔の殺人/容疑者Xの献身(ガリレオシリーズ)/夢をかなえるゾウ/コンフィデンスマン/シャーロックホームズ/一瞬を生きる君を僕は永遠に忘れない/くちぶえ番長/注文が多い料理店/南総里見八犬伝/アルジャーノンに花束を/鹿の王/走れメロス/スイミー/3000円の使い方/永遠の0/火垂るの墓/シートン動物記/人間失格/風の又三郎/また同じ夢を見ていた/三毛猫ホームズの古時計/図書館戦争シリーズ/精霊の守り人シリーズ/三国志/もし地球が一つのリンゴだったら/wonder/アルケミスト/逆ソクラテス/モモ/火車/ノルウェイの森/兎の目/西遊記/君はともだち/七つの会議/ライオンのおやつ/ファウスト/火の鳥/「また必ず会おう」と誰もがいった

(小説以外)

10代にしておきたい17のこと/こども六法/副業するならカメラマン/カメラははじめます/戦国武将ビジュアル大百科/たくさんの不思議/日本史1200人/戦国時代の「戦」の話をしよう/夢と金/罪と罰を読まない

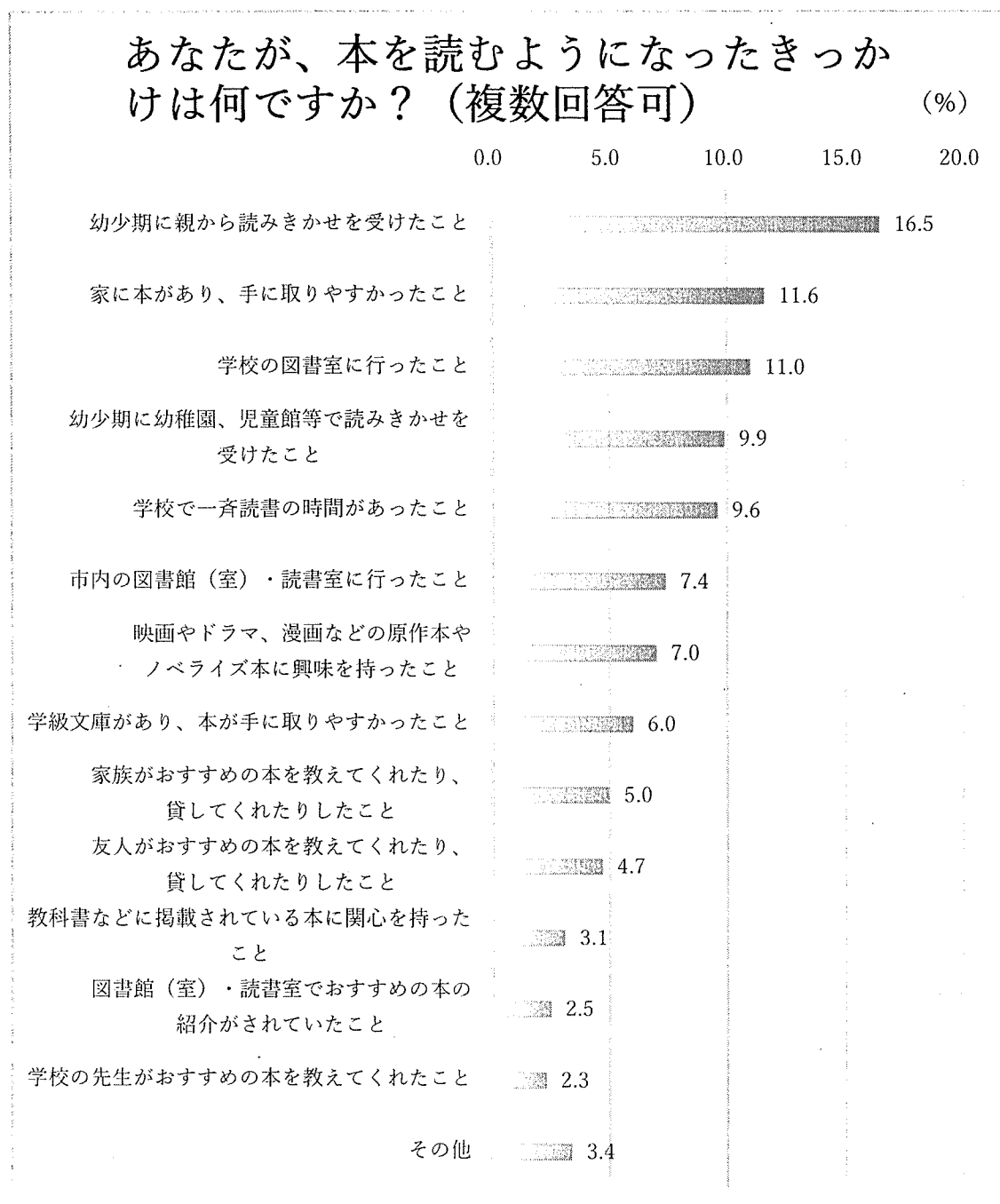


本を読むようになったきっかけ

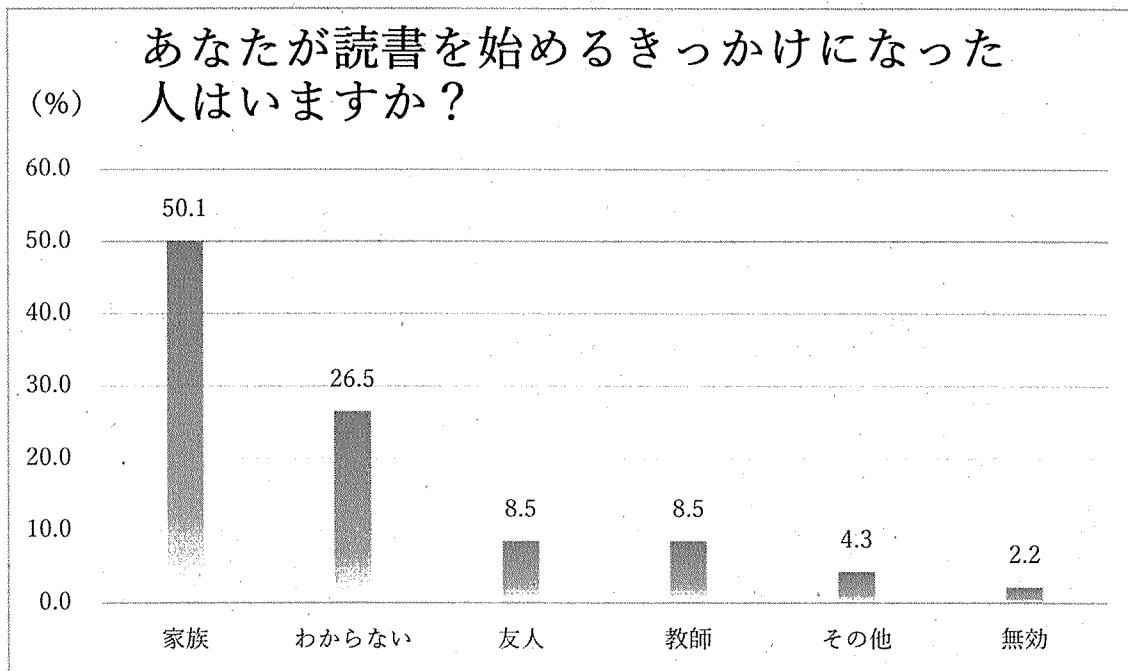
図書館の利用者に聞きました

図書館利用者集計結果の抜粋

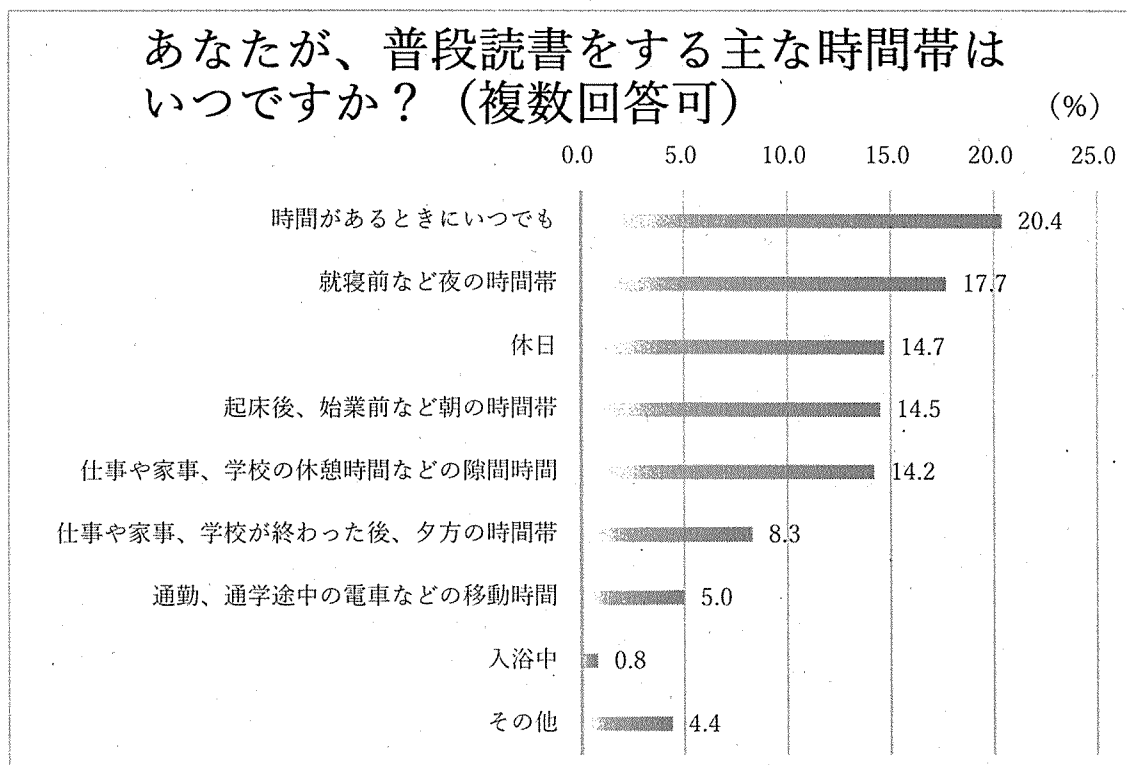
※アンケート結果より読書をするきっかけや本の選び方について抜粋したものです。全体のアンケート結果については巻末の参考資料に掲載しています。



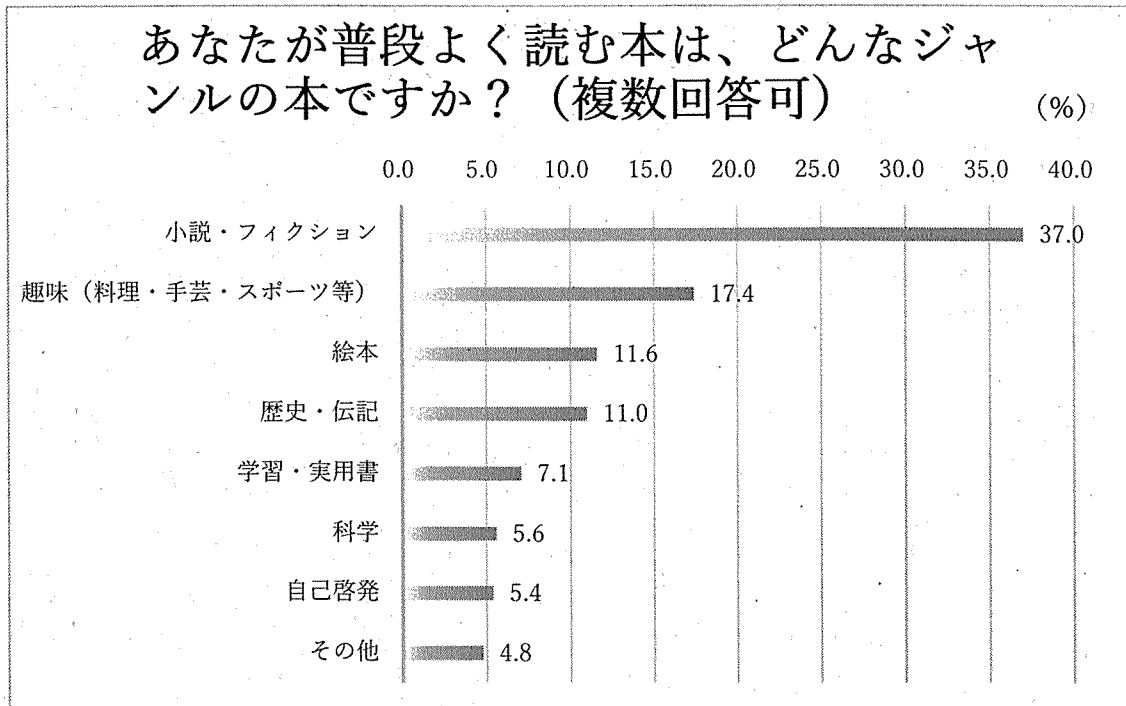
「幼少期に親から読みきかせを受けたこと」及び「家に本があり、手に取りやすかったこと」、「学校の図書室に行ったこと」の割合が多く、身近に本があることが読書を始めるきっかけとなっていることがうかがえます。



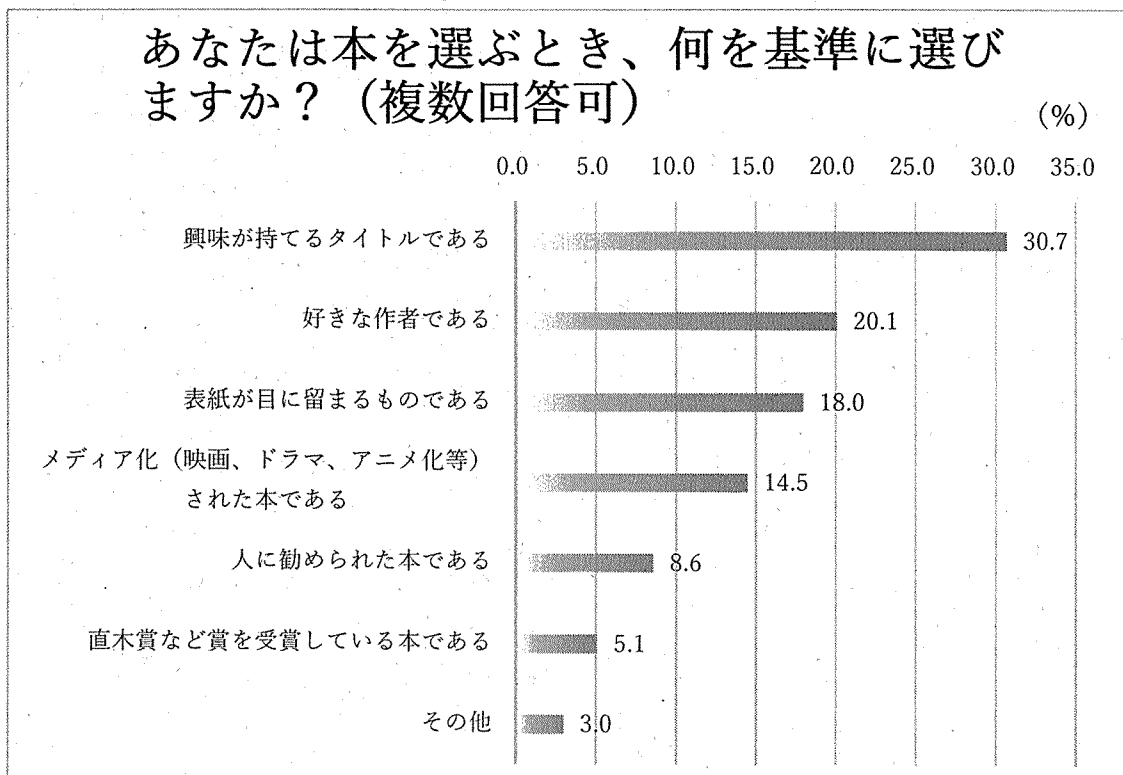
「家族」が最も多かったです。「わからない」と回答した人のうち、前の問で「幼少期に親から読みかかせを受けたこと」や「家に本があり、手に取りやすかったこと」、「学校の図書室に行ったこと」を選んでいる割合が多いことから、身近に本があることが読書を始めるきっかけとなっていると推測されます。



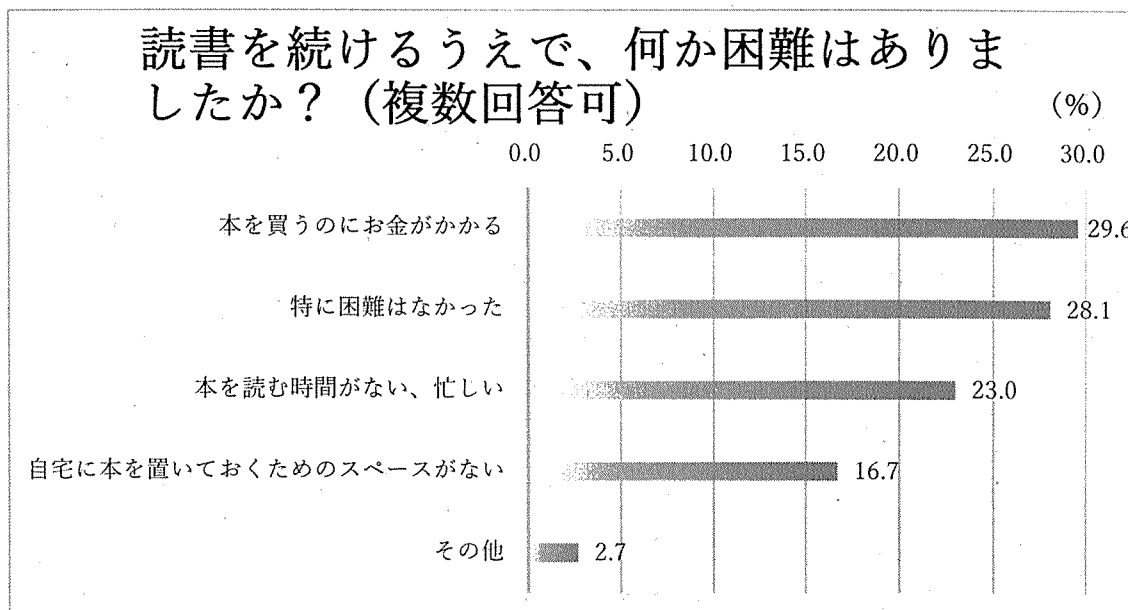
特定の時間帯ではなく、隙間時間を使って読書をする様子が見受けられます。



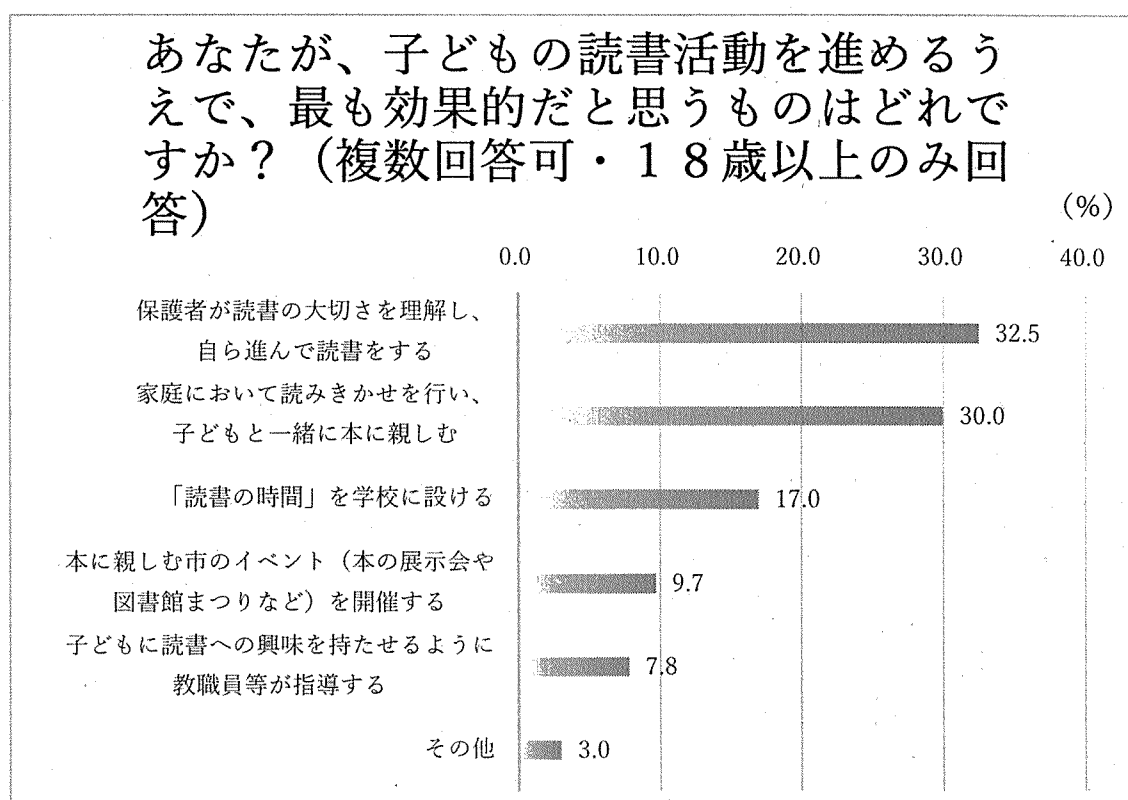
「小説・フィクション」が多かったです。基本的には読書習慣が身につくと、様々なジャンルの小説を読むようになると推測されます。



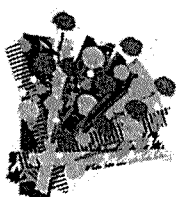
「興味を持てるタイトルである」・「表紙が目に残るものである」の割合が多く、本と出会った時の印象で選ぶ人が50パーセント程度いることがうかがえます。



「本を買うのにお金がかかる」及び「特に困難はなかった」と回答した人がそれぞれ3割程度という結果となりました。



「保護者が読書の大切さを理解し、自ら進んで読書をする」及び「家庭において読みきかせを行い、子どもと一緒に本に親しむ」と回答した割合が合わせて60パーセント程度となったことから、家庭において読書ができる環境を整えることが効果的と考えている人が多いことが推測されます。



第1章

計画策定の背景と考え方



第1章

計画策定の背景と考え方

1 子どもの読書活動

子どもにとっての読書活動は、感性と想像力、知性を育みながら、表現力や創造力など教養を高め、より豊かな人生を送るためにも欠かすことができない基本的な活動のひとつです。ただ、近年情報通信手段の多様化により、インターネットを利用する子どもが増加し、その利用は年齢があがるにつれ長時間に及ぶ傾向が見られます。こうした生活環境の変化は、子どもの読書活動にも大きな影響を与えている可能性が指摘されています。このような状況下で、子どもたちにとって発達段階に応じた読書機会が得られ、主体的に読書に親しむ習慣が身に付くよう家庭・地域・学校が連携し、子どもの読書活動を推進していくことが重要です。

2 これまでの経緯

国は、平成13年（2001年）12月に「子どもの読書活動の推進に関する法律」を施行しました。この法律は、子どもの読書活動の推進に関する施策を総合的に推進し、子どもの健やかな成長に資することを目的としております。この法律に基づき平成14年8月に「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」を策定し、令和5年3月までには、『第五次「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」』が策定されております。国の第五次の計画においては、その基本的方針に、

- (1) 不読率の低減
- (2) 多様な子どもたちの読書機会の確保
- (3) デジタル社会に対応した読書環境の整備
- (4) 子どもの視点に立った読書活動の推進

がとりあげられています。

なお、愛知県においては、平成16年3月に「愛知県子ども読書活動推進計画」が策定され、平成31年2月までには「愛知県子供読書活動推進計画（第四次）」が策定されております。

あま市では、平成26年4月に「あま市子ども読書活動推進計画」を策定し、平成31年4月に「第二次あま市子ども読書活動推進計画」を策定しました。そして令和5年度、国及び愛知県における子どもの読書活動推進計画の策定状況を踏まえ、あま市子ども読書活動推進計画策定委員会で検討を重ね、今後5年間の子ども読書活動推進の指針となる「第3次あま市子ども読書活動推進計画」を策定しました。

3 計画の目的

あま市では、「子どもの読書活動の推進に関する法律」第9条第2項の規定に基づき、平成31年4月に「第二次あま市子ども読書活動推進計画」を策定しました。この計画が令和6年3月をもって満了するにあたり、国及び愛知県の基本的方針、第2次あま市総合計画、あま市生涯学習推進計画を踏まえ、さらなる子どもの読書活動の推進を図ることを目的として、「第3次あま市子ども読書活動推進計画」を策定します。

4 本計画と上位計画の関係性

第2次あま市総合計画（期間：令和4年度～同13年度）の基本目標Ⅲ「心身ともに健康に暮らせるまち」の施策3「いきいきと学び続けられる環境が整ったまちをつくります」において、「読書活動につながる事業の開催、図書などの充実や読書習慣の普及啓発により、図書館の利用を促進します。」と明記されています。また基本目標Ⅳ「次代を担う人を大切に育てるまち」の施策2「教育環境の整ったまちをつくります」には、「学校図書館（室）における図書の充実、利用環境の向上を図ります。」とも記されています。

また、あま市教育立市プランの施策5「共に考え、学び、楽しむ生涯学習社会を創る」においても、「子どもの読書活動の推進」について記されています。

本計画においては、市の総合計画及び教育立市プランに準じながら、より具体的に図書館の利用促進と読書活動の推進を図ります。

5 計画の対象者

*18歳以下を対象とします。（本書では中高生を若者とも表記します）

6 計画の期間

令和6年（2024年）4月から令和11年（2029年）3月までの5年間とします。

参考 発達段階ごとの読書活動とは

子供が読書を好きになり、自主的に読書をするようになるためには、乳幼児期から発達段階に応じた取組が行われることが重要である。

*本書では中高生を若者とも表記します。

家庭、地域、学校等で具体的な取組が行われるに当たっては、読書に関する発達段階ごとの特徴として例えば以下のような傾向があることを踏まえつつ、乳幼児、児童、生徒の一人一人の発達や読書経験に留意し、取組が進められることが重要である。また、学校種間の接続期において生活の変化等により子供が読書から遠ざかる傾向が見られることに留意し、学校種間の連携による切れ目のない取組が行われることが重要である。

1 幼稚園・保育所等の時期（おおむね6歳頃まで）

乳幼児期には、周りの大人から言葉を掛けてもらったり乳幼児なりの言葉を聞いてもらったりしながら言葉を次第に獲得するとともに、絵本や物語を読んでもらうこと等を通じて絵本や物語に興味を示すようになる。更に様々な体験を通じてイメージや言葉を豊かにしながら、絵本や物語の世界を楽しむようになる。

2 小学生の時期（おおむね6歳から12歳まで）

小学校低学年では、本の読み聞かせを聞くだけでなく、一人で本を読もうとするようになり、語彙の量が増え、文字で表された場面や情景をイメージするようになる。

中学年になると、最後まで本を読み通すことができる子供とそうでない子供の違いが現れ始める。読み通すことができる子供は、自分の考え方と比較して読むことができるようになるとともに、読む速度が上がり、多くの本を読むようになる。

高学年では、本の選択ができ始め、その良さを味わうことができるようになり、好みの本の傾向が現れるとともに読書の幅が広がり始める一方で、この段階で発達がとどまったり、読書の幅が広がらなくなったりする者が出てくる場合がある。

3 中学生の時期（おおむね12歳から15歳まで）

多読の傾向は減少し、共感したり感動したりできる本を選んで読むようになる。自己の将来について考え始めるようになり、読書を将来に役立てようとするようになる。

4 高校生の時期（おおむね15歳から18歳まで）

読書の目的、資料の種類に応じて、適切に読むことができる水準に達し、知的興味に応じ、一層幅広く、多様な読書ができるようになる。

（出典：「子どもの読書活動の推進に関する有識者会議 論点まとめ」（文部科学省）
(https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shougai/040/attach/1402566.htm))



第2章

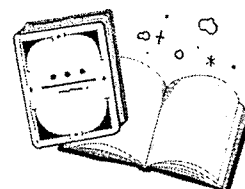
子ども読書活動の現状と課題



第2章

子ども読書活動の現状と課題

アンケート結果・ヒアリングから見た現状と課題



(1) 不読率の上昇

「1か月でどのくらいの本を読むか」の問いに対し、読まないと回答した子どもの割合が第1次、第2次の結果と比較し増えています。唯一中学2年生に限っては、その原因がはっきりしないが減少しています。また小学4年生については、「読まない」と回答した数字が、第2次で半減したにもかかわらず、第3次では7.5パーセントも上昇しました。最も不読率が高いのは高校2年生で、65パーセントでありました。今後は、3歳児・年長児の保護者や高校生を中心に、不読率の増加に歯止めをかける必要があります。

(本を読まないと回答した割合の推移) (%)

区分	第1次	第2次	第3次
3歳児保護者	56.0	41.7	59.0
年長児保護者	43.0	39.8	59.6
小学4年生	33.0	12.4	19.8
中学2年生	45.0	30.9	25.7
高校2年生	55.0	56.5	65.4

*第1次は2013年、第2次は2018年、第3次は2023年に調査したデータ

そのための対応

基本目標 2 君たちと本をつなぐための「情報発信」で施策を展開

(2) 図書館の利用率の低下

市内公共図書館、図書室、読書室を利用しないと答えた人に対し理由を聞いたところ、一番多い回答は小中高いずれも「本を借りたり読んだりしたいと思わない」でありました。高校生に限っては半数近くが読書をしたくないと思わない、という結果になっています。

図書館を利用しない人の中には、「図書館が遠いから利用しない」といった意見が散見され、地域間で図書館利用に格差が生じています。

また、学校図書館を利用しないと答えた人に対しても理由を聞いたところ、小中高い

ずれも「読みたい本がない」及び「本を借りたり読んだりしたいと思わない」と回答した人が多く、その割合はそれぞれ 30 パーセント程度となっています。このことから、児童生徒の視点にたった選書を心掛けるとともに、魅力ある図書館づくりが求められます。

(第2次計画基本目標2 公共図書館等利用率の数値目標の達成状況) (%)

区分	平成30年度 9～10月実績	令和5年度 9～10月実績	目標値	達成状況
0～6歳	23.0	27.7	25.0	達成
7～12歳	42.3	34.7	45.0	未達成
13～15歳	10.7	11.6	12.0	
16～18歳	5.9	4.5	8.0	

*各世代の人口に対しての、9～10月の2ヵ月間に利用した人数の割合

(市内公共図書館を利用しないと回答した割合の推移) (%)

区分	第1次	第2次	第3次
3歳児保護者	62.0	61.1	66.0
年長児保護者	45.0	49.3	46.1
小学4年生	27.0	31.7	36.9
中学2年生	61.0	62.0	71.1
高校2年生	68.0	67.5	81.6

*3歳児保護者及び年長児保護者については、「ほとんど利用しない」割合

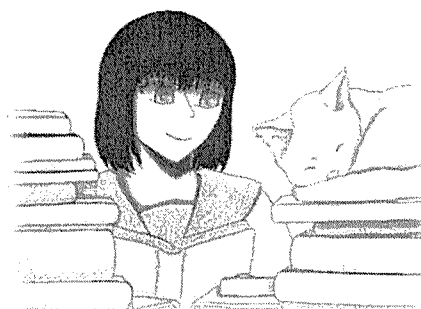
(学校図書館を利用しないと回答した割合の推移) (%)

区分	第1次	第2次	第3次
小学4年生	11.0	8.8	24.6
中学2年生	80.0	78.1	75.3
高校2年生	77.0	86.8	79.9

そのための対応

基本目標 2 君たちと本をつなぐための「情報発信」と

3 君たちと本をつなぐための「環境整備」で施策を展開



(3) 読書が好きな子どもは減少傾向

読書が「好き」あるいは「どちらかといえば好き」と70パーセントが回答しています。第1次、第2次と比較すると小中学校の値は横ばいですが、高校生は前回よりも10パーセントほど減少しています。平均値で見ても全体的に減少傾向にあります。依然として70パーセント近くの子どもたちが、読書が「好き」あるいは「どちらかといえば好き」と回答していることは、読書活動の推進についていえば明るい材料といえるでしょう。

(読書が「好き」あるいは「どちらかといえば好き」と回答した割合の推移)(%)

区分	第1次	第2次	第3次
小学4年生	77.0	78.0	74.4
中学2年生	69.0	67.0	71.8
高校2年生	78.0	70.2	62.5

そのための対応

- 基本目標 1 君たちと本をつなぐための「きっかけ」と
2 君たちと本をつなぐための「情報発信」と
3 君たちと本をつなぐための「環境整備」で施策を展開

(4) 多様な子どもたちの読書機会の確保

国の第五次「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」における基本的方針に「多様な子どもたちの読書機会の確保」とあるように、本市においても障がいのある子どもたちや日本語能力に応じた支援を必要とする子どもたちに対応した読書環境を整備し、読書機会の確保に努めることが求められています。また、ヒアリングにおいては外国にルーツのある子どもたちへの対応も取り組まねばならない課題の一つとして判明しました。

そのための対応

- 基本目標 3 君たちと本をつなぐための「環境整備」で施策を展開

(5) 電子書籍の利用は 30 パーセント程度

第3次のアンケートから新たな設問として、Q「あなたは、普段電子書籍を利用しますか？」の問いに対し、小学生 20.2 パーセント、中学生 37.2 パーセント、高校生 41.9 パーセントが利用しており、全体平均は 33.1 パーセントとなっています。

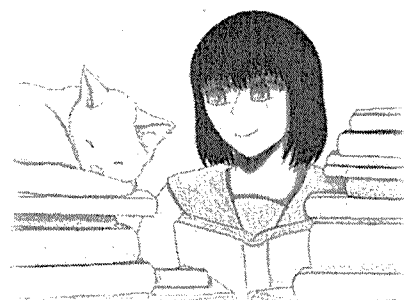
なお第 68 回*学校読書調査報告（「学校図書館No.877」2023.11 より）によれば、Q「あなたはスマホやタブレットなどを使って電子書籍の読書をしたことがあるか？」の問いに対し、小学生（4～6 年）30.4 パーセント、中学生 48.6 パーセント、高校生 55.2 パーセントが利用しており、全国平均からみると本市の値は大きく下回っているといえます。

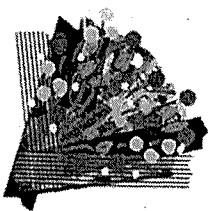
ただし本市においても電子書籍の利用は増え続けることに間違いはなく、さらに居住地による読書環境の格差等、本市における現況の課題点を考えると電子書籍の導入も将来的には整備していく必要があります。

そのための対応

基本目標 3 君たちと本をつなぐための「環境整備」で施策を展開

*学校読書調査…昭和 28 年から現在まで続けられる読書に関するアンケート調査。（公社）全国学校図書館協議会により実施され、全国の小中学校及び高校より 128 校（68 回調査は）を抽出し、児童生徒に対しアンケート調査を行う。





第3章

読書活動推進の基本方針



第3章

読書活動推進の基本方針

1 基本理念

「未来を拓く^{ひら}鍵^{かぎ}を君たちへ」

2 基本目標

基本理念を実現するために、本市の実情を踏まえ子どもの読書活動の推進を目的とした3つの基本目標を設け、それぞれの課題を明確にし、基本目標を達成する取組を示します。

- (1) 君たちと本をつなぐための 「きっかけ」
- (2) 君たちと本をつなぐための 「情報発信」
- (3) 君たちと本をつなぐための 「環境整備」

3 取組と主な施策

(1) 君たちと本をつなぐための「きっかけ」

○読書活動のきっかけを作るとともに、子どもの視点に立った読書活動を推進します。

- ① 家庭における取組・・・読み聞かせの奨励、発達段階に応じた読書の提供など
- ② 図書館・行政における取組・・・ブックスタートの継続、読書に関するイベントの実施
- ③ 学校等における取組・・・読書に親しむ時間づくり、探求学習での学校図書館の利用促進

(2) 君たちと本をつなぐための「情報発信」

○図書館等の活動を発信するとともに読書活動の大切さを伝え、不読率の低減を図ります。

- ① 家庭における取組・・・本に関する興味関心の向上、読書活動の継続
- ② 図書館・行政における取組・・・子ども読書の日に合わせたイベント、中高生向けのイベントの実施
- ③ 学校等における取組・・・図書委員の活動内容の充実、学校図書館の利用促進

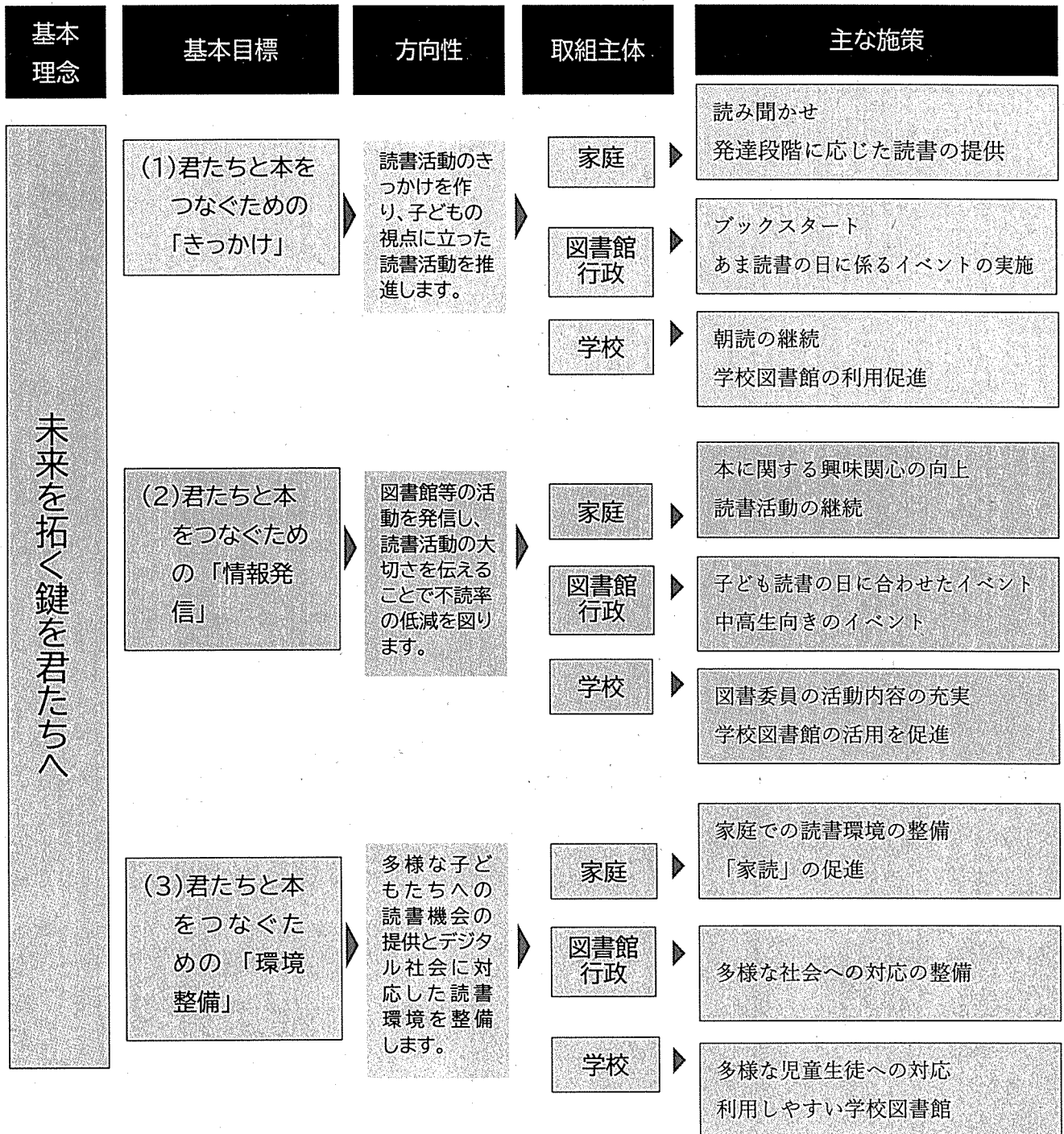
(3) 君たちと本をつなぐための「環境整備」

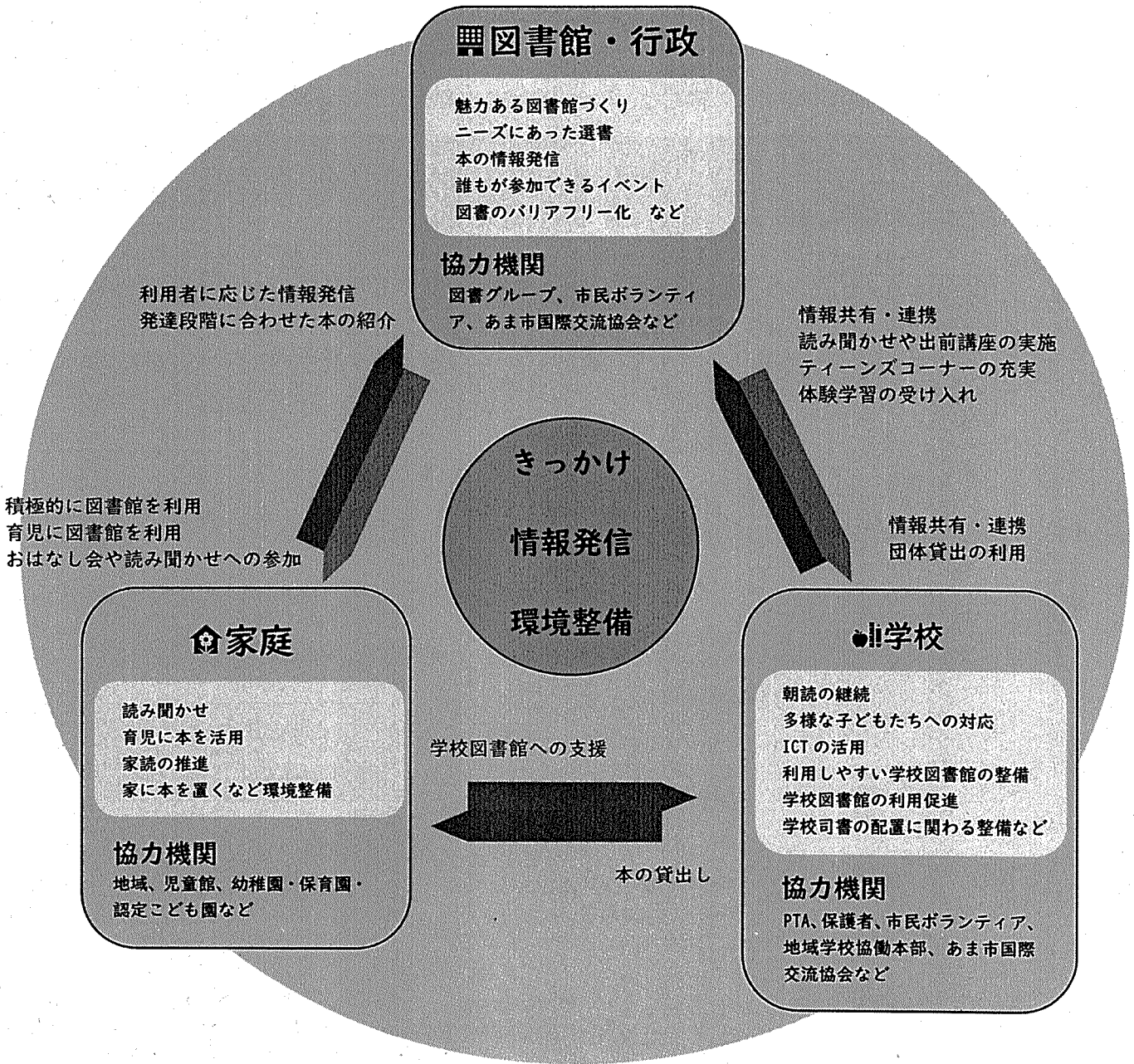
○多様な子どもたちへの読書機会の提供とデジタル社会に対応した読書環境を整備します。

- ① 家庭における取組・・・家庭での読書環境の整備、「家読」の促進
- ② 図書館・行政における取組・・・多様な社会への対応の整備
- ③ 学校等における取組・・・多様な児童生徒への対応の整備、利用しやすい学校図書館の整備

4 体系図

子どもによる主体的な読書活動の推進は、社会全体で取り組むことが必要不可欠です。





第4章

読書活動の推進のための具体的な施策



第4章

読書活動の推進のための具体的な施策

1

基本目標1 君たちと本をつなぐための「きっかけ」

【方向性】

読書活動のきっかけを作るとともに、子どもの視点に立った読書活動を推進します。

【家庭の役割】

小学校までの子どもたちにとって、その生活の中心となるのは、やはり家庭であり、読書活動を推進するためには家庭が重要な役割を担っていると考えられます。常日頃より、保護者が子どもの読書活動を習慣化させることを意識し、幼い頃より絵本を通し読書の楽しさを伝えることは読書を習慣にする良い「きっかけ」であります。定期的に読書時間を設けるためにも年齢にあった本を選書し、家庭においても子ども視点に立った読書環境の充実を図っていくことが大切であると考えます。

今回、保護者を対象に行ったアンケート結果から「子どもの読書活動を進める上で、もっとも効果的だと思うものはどれですか？」に対して、「家庭において読みかせを行い、子どもと一緒に本に親しむ」と答えた方が半数以上を占めたとおり、家庭における親の読み聞かせは、子どもの感性を豊かにし「想像力」と「創造力」を養い、心の成長につながると考えられます。

取組主体	施策	具体的な施策
家庭	読み聞かせ	読み聞かせの実施
	発達段階に応じた読書の提供	育児に本を活用することで、親子のふれあいを通し子どもの感受性を高める
	「家読」の推進	図書館を利用するなど、家庭に本を常備する

自分を認める・好きになる 読み聞かせの効果！！

乳幼児期の絵本の読み聞かせは、共感性が発達し、向社会的行動が促進され、心の健康（自己肯定感）につながります。

絵本を通して自分を認め、自分を好きになる「きっかけ」につながります。読み聞かせを通して、親子で自己肯定感の大切さを学びましょう。



コラム

2

【図書館・行政の役割】

子どもが読書に興味や関心を持つ「きっかけ」となるイベントを、市内の図書館・図書室・読書室（以下「公共図書館等」という。）で実施します。また、あま市では毎年10月27日を「あま読書の日」と定め、公共図書館等と学校や市内関係機関が連携を図りながら読書活動の大切さを啓発し、子どもを取り巻く大人にも読書に対する理解、関心を高めてもらい、さらなる活動の推進を図っています。また、子どもの成長段階に応じた図書や読みきかせの方法などを保護者に紹介します。

これまで公共図書館等では乳幼児や児童対象となっており、中学生以上を対象とした催事が行われていないことから、あま読書の日に中高生向けの事業を実施します。

取組主体	施策	具体的な施策
*1図書館等 行政	育児に本を活用	ブックスタート事業の継続 赤ちゃん絵本おすすめリストの作成と配布
	読み聞かせ	乳幼児に向けたおはなし会など
	中高生の利用促進	あま読書の日などでのイベントの実施 学習スペースの確保
	*2レファレンスサービスの 利用促進	レファレンスサービスの周知
	図書館の充実	ニーズに合った選書 本紹介コーナーの充実

*1 ここでいう図書館等とは市内公共図書館・図書室・読書室をいう。

*2 利用者が求める資料等を探すお手伝いをするサービスのことをいう。

あなたの「推し本」を伝え広めよう！！

みんなに読んでほしい、流行ってほしい、とにかく誰かに読んだ気持ちを伝えたい……そんな「推し本」はありませんか？

そんな時はぜひ、美和図書館ティーンズコーナーの「teens post（右写真）」をご利用ください！本のタイトルと作者名、紹介文やイラスト（簡単なものでOK!）を書いたポップをポストイン！後日、紹介コーナーに飾られるかも。名前などの記入も必要なし！気軽に書けちゃいます♪ポップ用紙もポストの横にあるので是非活用してみてください。



コラム

3

【学校の役割】

中高校生にとって、読書の必要性を認識していながらも、時間がとれないなど読書に対する優先度は年々下がっています。そのため学校は公共図書館等と連携し、本とのふれあいを通し、読書の楽しさ、重要さを認識できる活動に取り組む必要があります。

また、読書習慣の形成を図るために「朝読」や「読み聞かせ」・「おはなし会」などを継続して行うことが大切です。図書委員が中心となって企画（催事）を行うなど、児童生徒の目線で読書に対する関心を喚起することも必要と考えます。

またアンケート結果では、年齢が高くなるにつれて本を読まない子どもの割合が増えていることから、年齢に応じた読書習慣を形成できるよう、個々の実情に合わせ、読書への「きっかけ」を与えることが重要です。

取組主体	施策	具体的な施策
学校	朝読や読み聞かせ	継続して実施
	学校図書館の利用促進	探求学習等での学校図書館の利用 児童生徒のニーズに合った選書
	図書委員会の活用	校内での図書まつり等の実施

小説には無い「へ～」な世界！科学の新書

ティーンズの皆さん、おすすめ本といえば小説が多いよね。小説で疑似体験をして、心揺さぶられるって大事なこと。でもね、日々勉強や部活、推し活に忙しいと、のんびり小説の世界に浸ってられない！そんな時、隙間時間を楽しめるのが科学の新書。目次ごとに好きなどころから読んでもいいし、軽くてコンパクトで持ち運びにも Good!

世の中には「こんなこと考えてる人がいるんだ」って驚きを味わってね。



基本目標 2 君たちと本をつなぐための「情報発信」

【方向性】

図書館等の活動を発信するとともに読書活動の大切さを伝え、不読率の低減を図ります。

【家庭の役割】

子どもたちの読書環境は日々変化しています。そんな今の子どもたちと本をつなぐためには、親の影響力は大きいものがあります。常日頃より、子どもたちに対し読書活動の意義（情報発信）を伝えましょう。

市内には図書及び読書に関わる市民グループがあり、公共施設などで読み聞かせ、図書館において定期的にイベントを実施しております。グループに入会し、ボランティア活動を通し、我が子のみならず、多くの子どもたちに読書活動の意義（情報発信）を伝えることもできます。

取組主体	施策	具体的な施策
家庭	読書の面白さを伝える	読み聞かせの継続
	図書館の利用	イベントなどへの参加 レファレンスサービスの活用
	ボランティア活動	図書グループへの入会や図書ボランティア活動の実施

【図書館・行政の役割】

あま市の子どもの不読率は、全国的な数値と同様に上昇していると考えられます。子どもたちが今の生活スタイルを維持しながら、読書あるいは本への関心を高められることが理想です。

また、これまで本市では「あま読書の日」や「子ども読書の日」（4月23日）、「読書週間」（10月27日～11月9日）などに関連したイベントにおいて、読書活動の意義を発信してきました。家庭における読書活動を推進するためのポスターを公共施設に掲示し、同時に保護者に対し、読みきかせや家読の重要性について理解を深めるよう働きかけてきましたが、その成果については不明瞭です。そのため今後は、これまでと同様の手法ではなく、今の子どもたちにあった方法による情報発信と手法を関係機関と連携し、さらには他市町の先進事例を参考に情報を発信します。

これらによって着実な読書活動の推進を図るために、32ページのような5年後に向けての数値目標を定めます。

取組主体	施策	具体的な施策
図書館等	読書普及のための取組	スマートフォンなどに対応した情報発信 司書の出前講座の実施
	ボランティアとの連携	ボランティアグループとの交流や情報共有
	図書館の利用促進のためのイベント	「あま読書の日」など本にちなんだイベントの開催
	子ども読書に関する相談体制の充実	レファレンスサービスの向上 おすすめ本リストの配布
行政	講座の実施	生涯学習課で読書活動の必要性を認識できる講座を実施
	各公共施設の催事を利用した情報発信	公民館及び資料館等の催事に合わせるなど、 切れ目のない情報発信 他部署と連携した情報発信
	恒常的な情報発信	読書活動推進ののぼり旗（市オリジナル）などの掲示

区分	平成 30 年度実績	令和 5 年度実績	目標値
0～6 歳	23.0%	27.7%	30.0%
7～12 歳	42.3%	34.7%	37.0%
13～15 歳	10.7%	11.6%	14.0%
16～18 歳	5.9%	4.5%	7.0%

公共図書館等利用率の数値目標(各世代の人口に対しての、9～10月に利用した人数の割合)

【学校の役割】

学校司書と連携し校内での読書及び読書活動に関する情報を発信しながら、子どもたちが利用しやすい学校図書館を運営する必要があると考えます。

また中学2年時の職場体験に図書館を推奨し、あるいは図書館の主催事業へのボランティア参加を促進し、図書館業務の一端を実際に体験してもらうことで、図書館への理解を深めると同時に読書活動の意義（情報発信）を伝えます。

取組主体	施策	具体的な施策
学校	図書館の情報発信	図書館だより等の設置
	委員会活動の充実	校内の読書活動の啓発やイベントの実施
	図書館への理解	美和図書館への職場体験を推奨

基本目標3 君たちと本をつなぐための「環境整備」

【方向性】

多様な子どもたちへの読書機会の提供とデジタル社会に対応した読書環境を整備します。

【家庭の役割】

子どもたちが本に楽しくふれることができる読書環境の整備を図るとともに公共図書館等と児童館との情報を共有して、家庭における読書活動の推進を図ります。保護者が子どもの年齢に応じた本を選びやすくなるよう、利用者が求める資料等を探すお手伝いをする「レファレンスサービス」の周知を行い、家庭での読書環境の整備に努めます。

取組主体	施策	具体的な施策
家庭	読書環境の整備	子どもがくつろいで読書する環境を整備 蔵書の充実（家の本棚）
	年齢にあった選書	レファレンスサービスの活用

【図書館・行政の役割】

ここ数年の情報環境の変化は、子どもの読書環境に大きな影響を与えており、インターネットの利用時間が増加することで、読書離れが進行しているとも言われます。今後も、急速に変化する情報環境や社会の状況に応じた読書活動を考えていくことが重要な課題となっており、関係する機関が連携をとりながら子どもの読書活動を推進するための整備に取り組みます。

また図書に関する研修会に参加し職員のスキルアップを図るとともに、「愛知県子供読書活動推進大会」への参加など、県が開催する読書活動に関する事業に協力し、子どもの読書活動の推進にも努めます。

読書環境の整備として、令和元年6月「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律（読書バリアフリー法）」の施行に伴い、図書館利用に障がいのある方々に対する読書環境の整備が求められています。子どもたちに限らず、視覚障がい者はもとより高齢で目の不自由な方、発達障がいなどで字を読むことが困難な方々など、何らかの理由で読書活動が出来ない方たちと、さらに日本語を母語としない方なども含め、多くの人が読書による恩恵を受けることができるよう読書環境の整備を進めていく必要があります。

取組主体	施策	具体的な施策
図書館 行政	読書バリアフリー化	音声読み上げや拡大表示 ニーズに沿った資料収集 多様な子どもたちに対する図書対応 本の宅配サービス 電子書籍の導入を検討
	ボランティアの活用	市民ボランティアの募集と育成 地域学校協働本部との連携
	図書に関係した研修への参加	職員のスキルアップ

【学校の役割】

まずは学校図書館を最大限に活用することです。子どもたちが読みたくなる本の充実を図るとともに図書支援員（学校司書）の活用を通して、読書の楽しさや喜びをより一層伝えていくことが必要と考えます。各校、各地域の実情に則した運営を心掛けます。

また蔵書に関しては美和図書館の団体貸出（1回の貸出しにつき100冊まで）の利用を促進させ、子どもたちに良書を提供します。そして学習支援のためにも図書館の利用を促進させながら、誰もが平等に図書館を活用できるよう整備します。

取組主体	施策	具体的な施策
学校	ボランティアとの協働	図書ボランティアの確保とその活動の推進
	教職員の意識変革	授業における学校図書館利用の促進
	学校図書館の運営	図書支援員（学校司書）の活用 魅力ある学校図書館づくり
	デジタル化への対応	電子書籍の導入を検討
	誰もが利用しやすい学校図書館	多様な児童生徒に対する図書対応



第5章

読書活動に関する理解と関心



第5章

読書活動に関する理解と関心

理解はしているが関心は低い

平成 30 年度文化庁が実施した「国語に関する世論調査」の結果から、Q「人が最も読書すべき時期はいつ頃だと考えるか」の問いに対しては、「9 歳以下」が 18.8%、「10 歳代」が 40.7%、「20 歳代」が 8.7%、「30 歳代」が 2.1%、「40 歳代」が 1.0%、「50 歳代」が 1.3%、「60 歳以上」が 1.5%、「年齢に関係なくいつでも」が 21.8%、「特にそういう時期はない」が 3.3%となっており、10 歳代と答えた人が全体の 4 割と最も高いことが分かりました。多くの大人は、読書で得られる効果を理解しており、同時に子どもたちに対し、若いうちにたくさん本を読んでもらいたいという意識を持っていることが、この結果からは読み取れます。

一方で、大人の不読率について同アンケートによれば Q「1 か月に大体何冊くらい本を読むか」の問いに対し、「読まない」が 47.3%、「1, 2 冊」が 37.6%、「3, 4 冊」が 8.6%、「5, 6 冊」と「7 冊以上」がそれぞれ 3.2%となっており、全体の約半数が読まないと答えています。

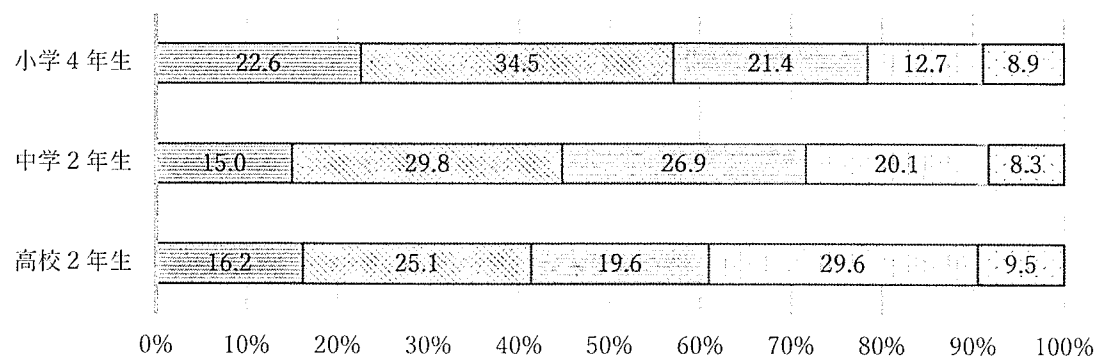
子どもにとって一番身近な保護者が普段本を読む姿を見ていない状況は、子どもの不読率をあげるひとつの要因であるのかもしれません。

【参考】

第 3 次計画策定にあたり追加したアンケート項目であり、市内の小中高生に聞いた Q あなたの家の人は普段本を読みますか、の問いに対する結果です。

問 10 あなたの家の人は、普段本を読みますか？

□1 よく読む □2 ときどき読む □3 あまり読まない □4 読まない □5 わからない



第6章

子ども読書活動の推進体制



第6章

子ども読書活動の推進体制

推進体制の整備

【現状と課題】

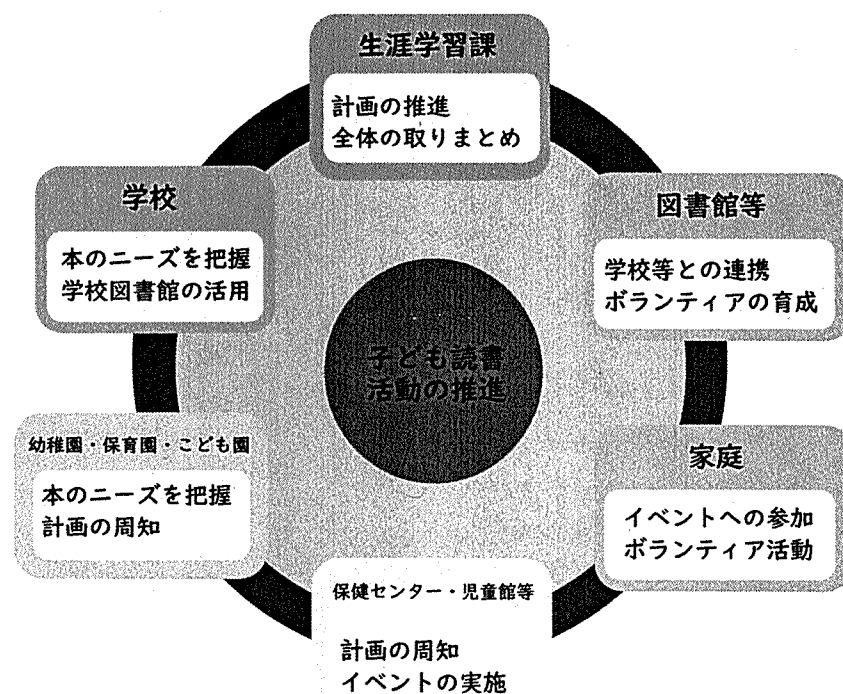
子ども読書活動を推進するためには、それぞれの関係機関の密接な連携が重要となります。しかし、子どもの読書活動は、各施設で個別に行われており、情報の交換が十分図られておらず、活動の把握及び連携が取れていないのが現状のため、まずは互いに連携できるような体制の整備が必要です。また、子ども読書活動の推進には、各種図書グループや市民ボランティアの協力によるところが大きく、その人材の育成や個々のスキルアップを図ることも重要な課題です。

【取組】

子どもの読書活動にかかわる各施設、関係機関、ボランティアが連携を図り、情報交換、意見交換を積極的に行い、地域総ぐるみで子どもの読書活動を推進する体制や環境の整備に努めます。

子どもの読書活動にかかわる団体、保護者等を対象とした各種講座を開催し、図書ボランティアの確保、人材の育成・スキルアップに努めます。

【展開図】 連携の輪





参 考 资 料

調査の概要

1. 調査目的

第3次あま市子ども読書活動推進計画を策定するにあたり、子どもの読書活動の現状を把握し、参考資料とするため。

2. 調査対象者及び調査方法

(ア) 3歳児保護者

市内保健センターで3歳児健診の保護者にアンケート用紙を配布し、回答を回収しました。

(イ) 年長児保護者

市内各幼稚園・保育園・認定こども園を通じアンケート用紙を配布し、回答を回収しました。

(ウ) 小学4年生、中学2年生、高校2年生

市内各学校を通じアンケート用紙を配布し、回答を回収しました。

(エ) 図書館（美和図書館・甚目寺公民館図書室・七宝公民館読書室・各小中学校図書館）利用者

貸出手続き時にアンケート用紙を配布し、回答を回収しました。

3. 調査期間

令和5年（2023年）9月～10月

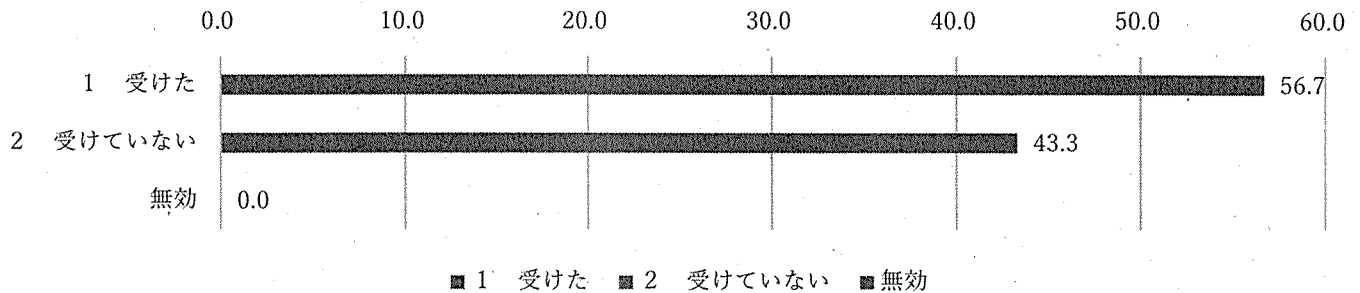
4. 回答状況

区分	対象者数（人）	回答者数（人）	回答率（%）
3歳児保護者	180	75	41.7
年長児保護者	854	334	39.1
小学4年生	857	655	76.4
中学2年生	843	588	69.8
高校2年生	400	179	44.8
図書館利用者	-	611	
合計	3,134	2,442	

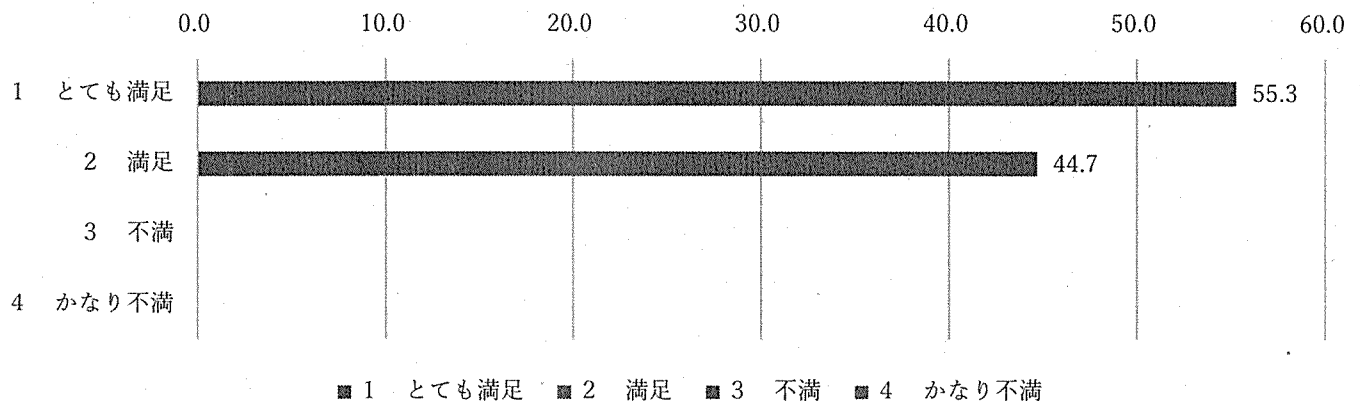
5. 調査報告書の表記

回答結果は、有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入し、パーセント（%）で表記しました（四捨五入の関係で100%とならない場合があります）。

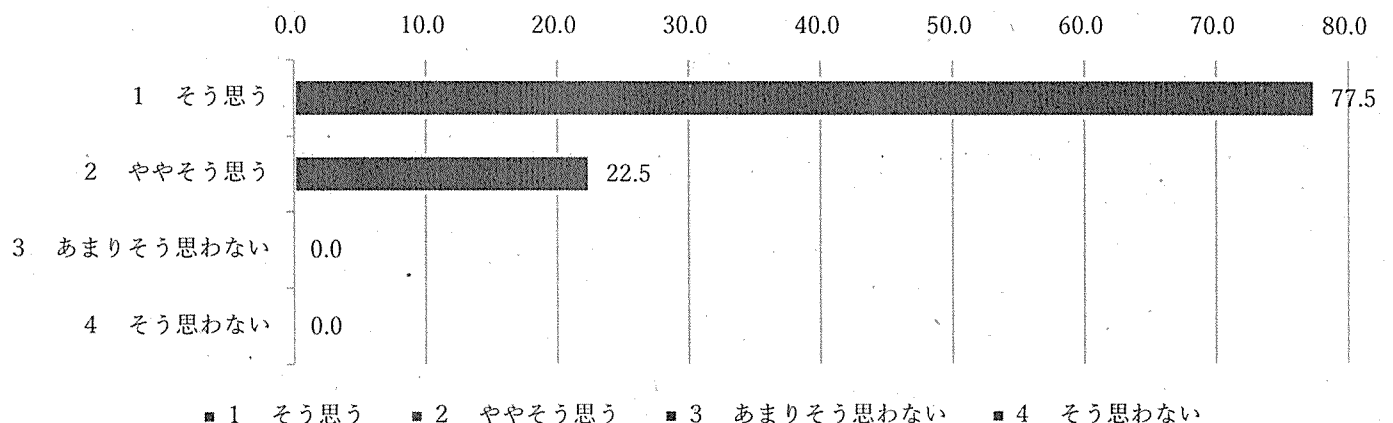
問1 あなたは、お子さんの乳児健診（3～4か月児健診）時にブックスタートを受けましたか？



問2 ブックスタートはどの程度ご満足いただけましたか。

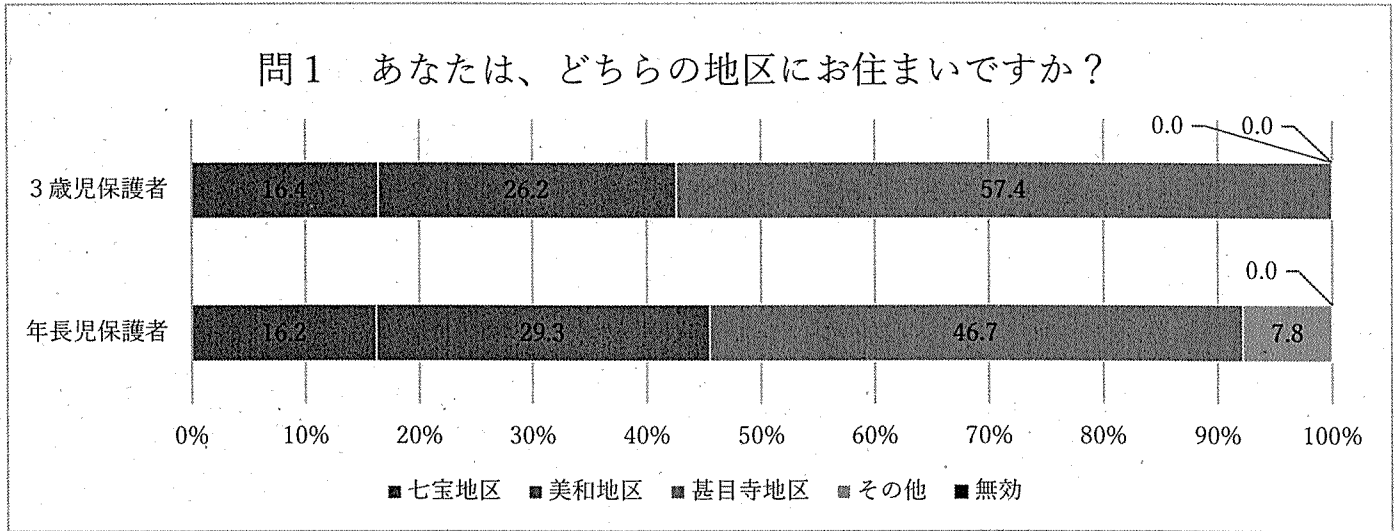


問3 今後もブックスタートを継続してほしいと思いますか。

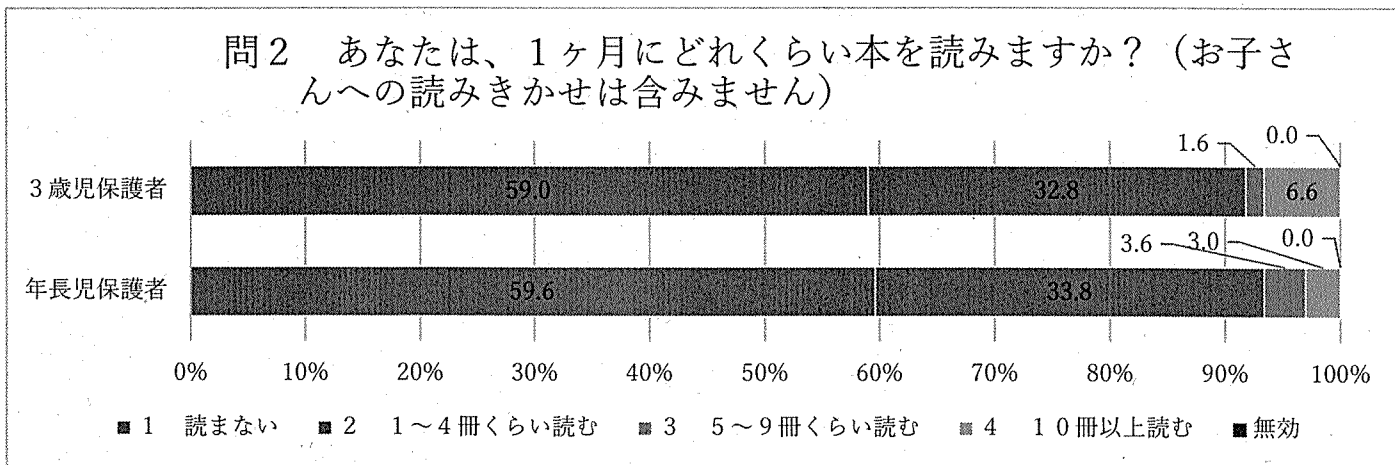


第2次では9割以上が「ブックスタート事業」に対して「とても満足」「満足」と回答していたが、今回はブックスタートを受けたと回答した方全員が「とても満足」「満足」と回答している。

3 3歳児保護者、年長児保護者集計結果



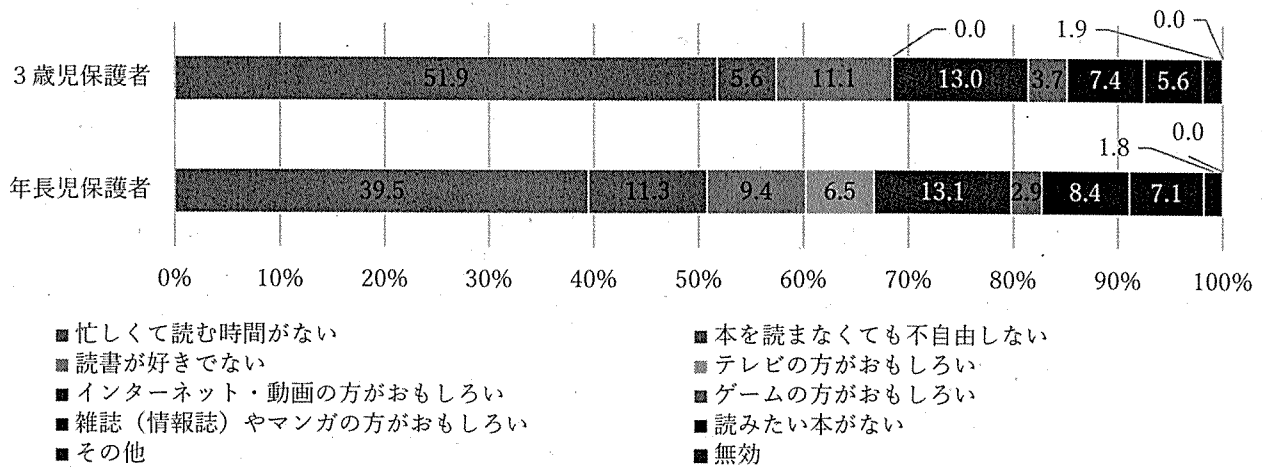
年長児保護者「その他」については、市内幼稚園等に通っているが、市外に住んでいる方がいたため。



第1次計画時「ほとんど読まない」と回答した3歳児保護者は56%、年長児保護者は43%で、第2次計画時「読まない」と回答した3歳児保護者は41.7%、年長児保護者は39.8%となっており、第1次及び第2次計画時から本を読まない人の割合が増加していると言える。

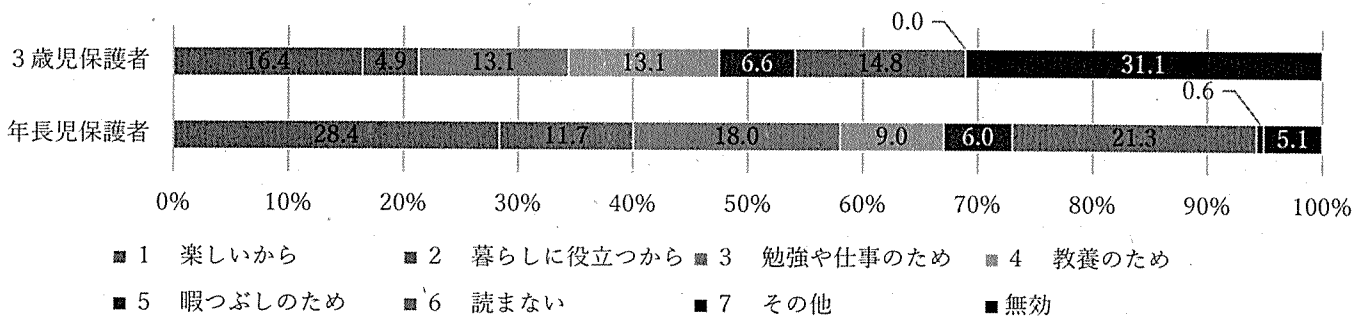


問3 問2で「1」を選んだ方にお尋ねします。本を読まない主な理由は何ですか？（複数回答可）



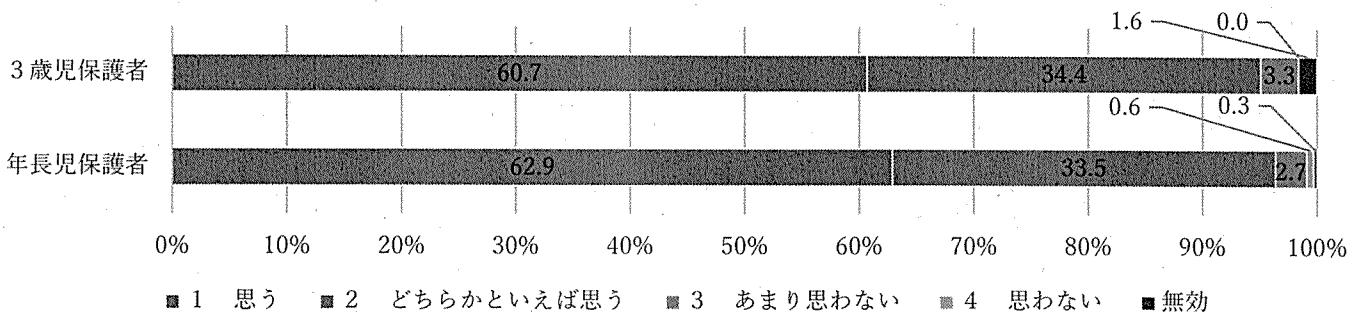
「忙しくて読む時間がない」と回答した人が圧倒的に多かったが、第1次及び第2次計画時と比べ減少している。今回「インターネット・動画の方がおもしろい」及び「ゲームの方がおもしろい」の選択肢を追加した結果、「インターネット・動画の方がおもしろい」と回答した人が「忙しくて読む時間がない」と回答した人の次が多かった。

問4 あなたは、主にどんな目的で本を読みますか？



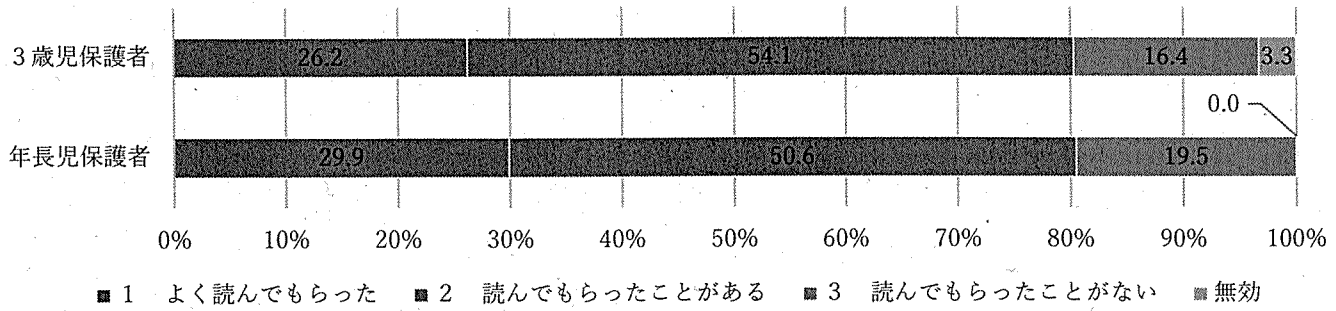
第2次計画時の3歳児保護者の「暮らしに役立つから」と回答した人の割合は11.1%となっており、半減した。第2次計画時にその他の回答として「暇つぶしのため」と回答した人がいたため、今回「暇つぶしのため」の選択肢を追加した結果、3歳児保護者と年長児保護者ともに6%程度の割合となった。

問5 あなたは、本を読むことが大切だと思いますか？



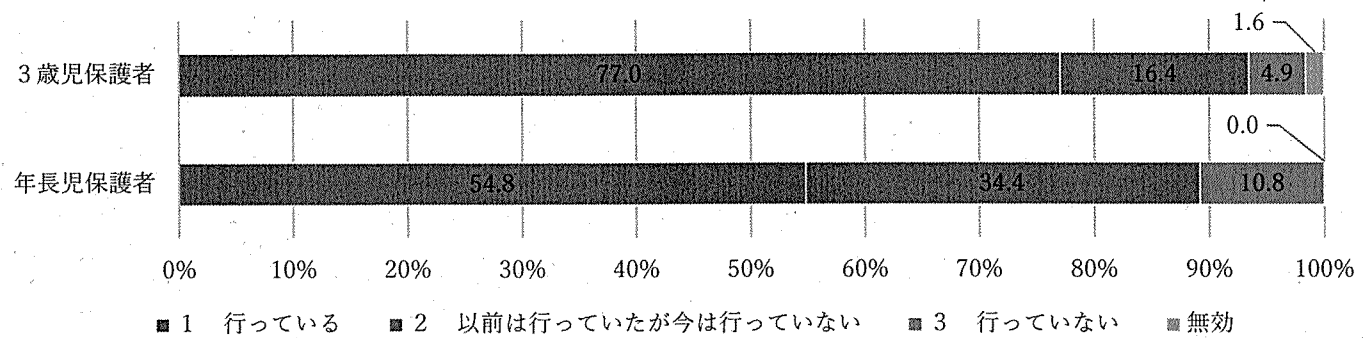
第1次及び第2次計画時と比べ、大きな変化はなかった。

問6 あなたは、子どものころに本を読んでもらったことがありますか？



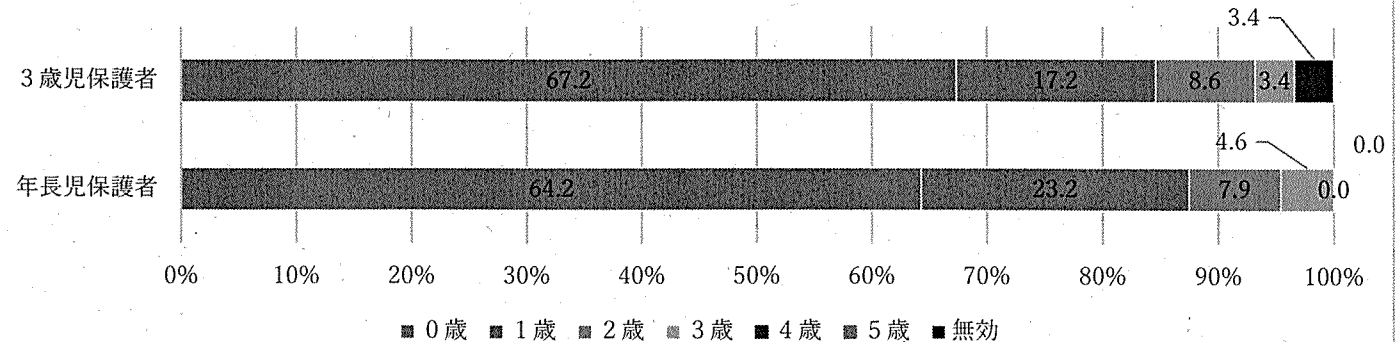
「よく読んでもらった」及び「読んでもらったことがある」と回答した人の割合は、第1次計画時では3歳児保護者87%、年長児保護者82%、第2次計画時では3歳児保護者86.2%、年長児保護者82.7%となっており、それぞれ「よく読んでもらった」及び「読んでもらったことがある」を合わせると、3歳児保護者80.3%、年長児保護者80.5%と3歳児保護者の割合が6%程度減少していた。

問7 あなたは、お子さんに読みきかせを行っていますか？



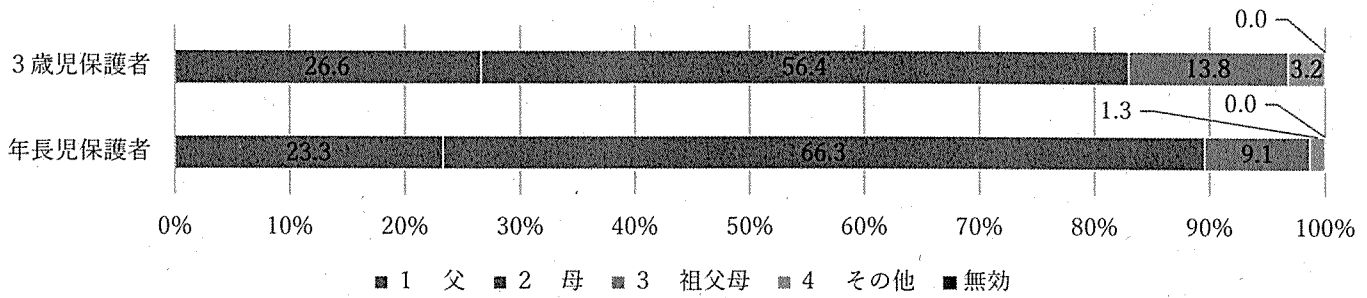
読みきかせは多くの家庭で行われており、第1次及び第2次計画時と比べると3歳児保護者の「行っている」と回答した人の割合が12%程度増加している。

問8 お子さんが何歳のころに読みきかせを始めましたか？



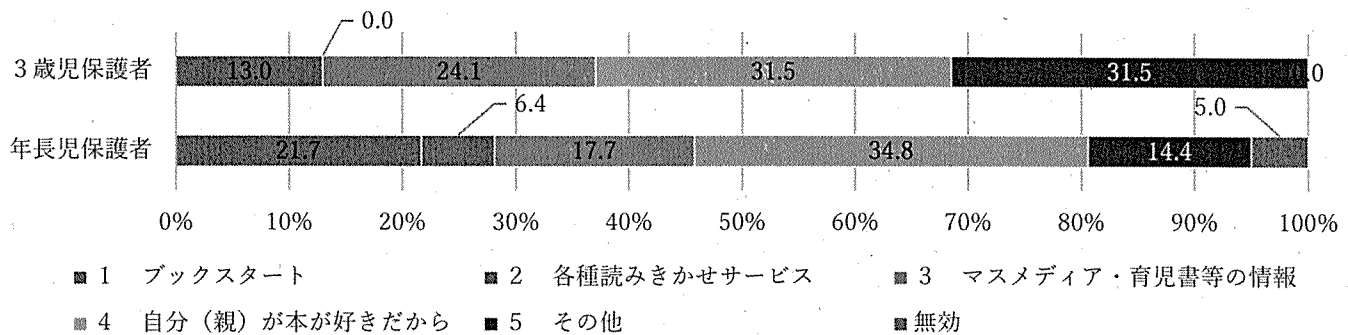
「0歳」と回答した人は、第1次計画時は3歳児保護者59%、年長児保護者42%、第2次計画時は3歳児保護者53.3%、年長児保護者51.3%となっており、第1次計画時比べると3歳児保護者は8%程度、年長児保護者は22%程度増加している。0歳から読みきかせを始める人が増えていることがうかがえる。

問9 ご家庭で主に読みきかせを行っている（行っていた）のはどなたですか？（複数回答可）



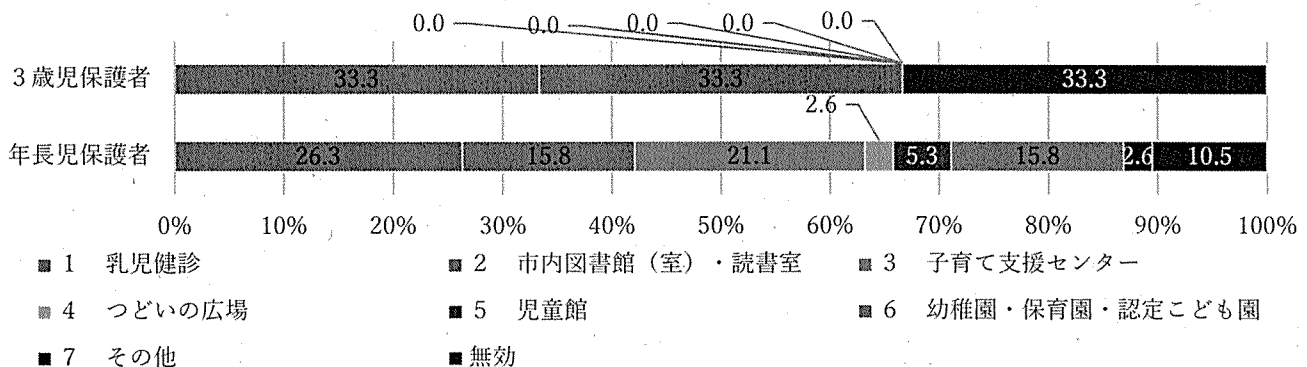
第1次及び第2次計画時と同様に、読みきかせを行うのは圧倒的に母親が多いが、「父」と回答した人の割合がそれぞれ20%程度増加している。

問10 あなたが、お子さんに読みきかせを始めたきっかけは何ですか？



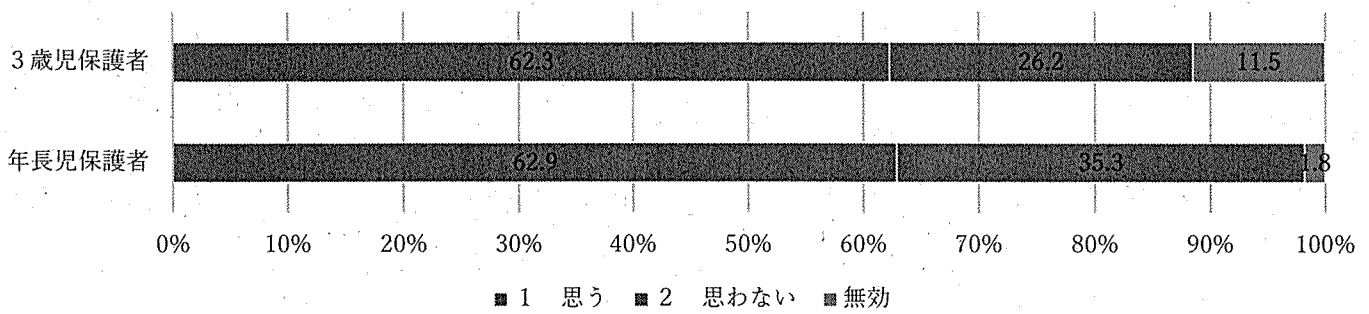
3歳児保護者のうち「マスメディア・育児書等の情報」と回答した人は第1次及び第2次計画時と比べると8～13%増加しており、年長児保護者も「その他」と回答した人のうち「子どもの成長に良いと知っていたから」の回答が一番多く、「子どもの成長に良いと聞いたから」読みきかせを始めた人が多いことがうかがえる。また、「自分（親）も本が好きだから」と回答した人が、第1次及び第2次計画時と比べるとそれぞれ10%程度増加している。

問11 問10で「2」と答えた方は、具体的にどこの読みきかせサービスですか？



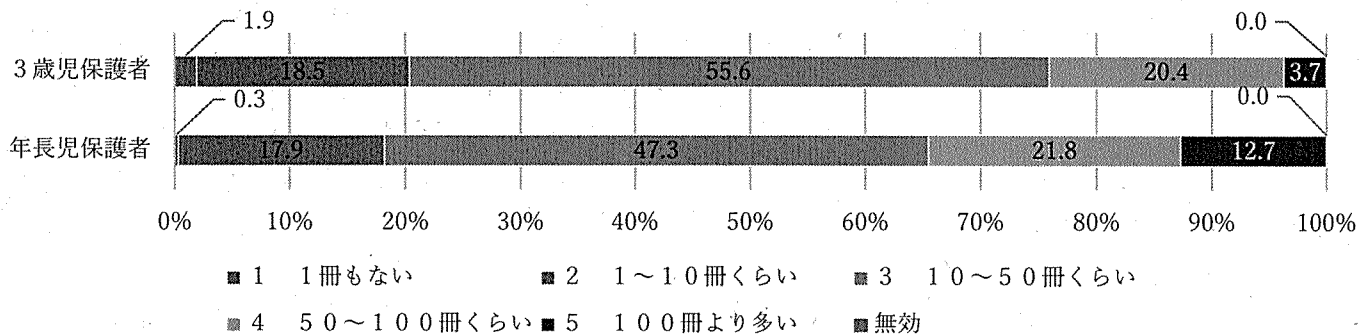
「乳児健診」と回答した人が、第1次及び第2次計画時と比べると3歳児保護者は30%程度、年長児保護者は14%程度大幅に増加しており、健診時に行う「ブックスタート」をきっかけにして読みきかせを始める人が増えているのではないかと推測される。

問12 あなたは、今、ご家庭において本に親しむ環境が整っていると思いますか？



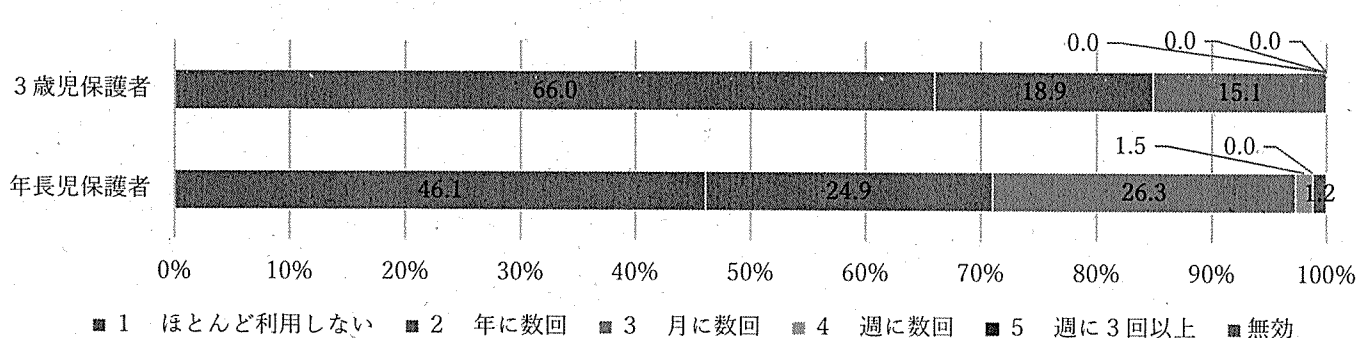
第1次及び第2次計画時と比べ、「思う」と回答した人がそれぞれ10%増加しており、家庭で読書ができる環境が整ってきていることがうかがえる。

問13 今、あなたのご家庭には大体どれくらいの本がありますか？



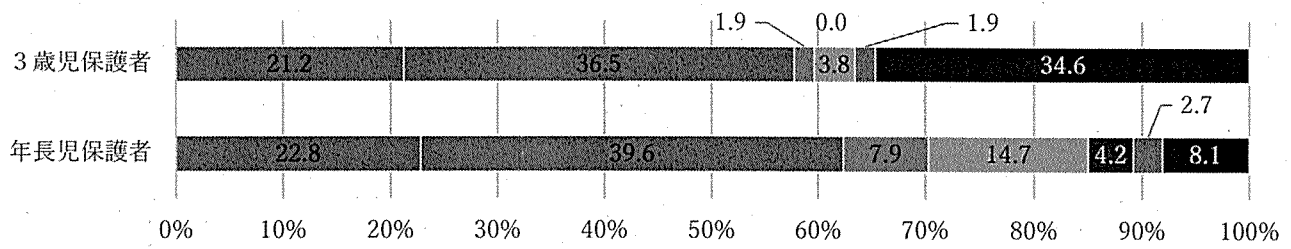
第3次計画策定にあたり追加した新規項目である。家庭内に本があると回答した割合が100%近くとなり、問12でも読み取れるように、家で読書ができる環境が整ってきていることがうかがえる。

問14 あなたは本を借りたり読書したりするために、市内図書館(室)・読書室をどのくらい利用しますか？



第1次及び第2次計画時と比べて大きな変化はなく、3歳児保護者では6割以上の方がほとんど利用していない。

問15 あなたが、子どもの読書活動を進めるうえで、最も効果的だと思うものはどれですか？

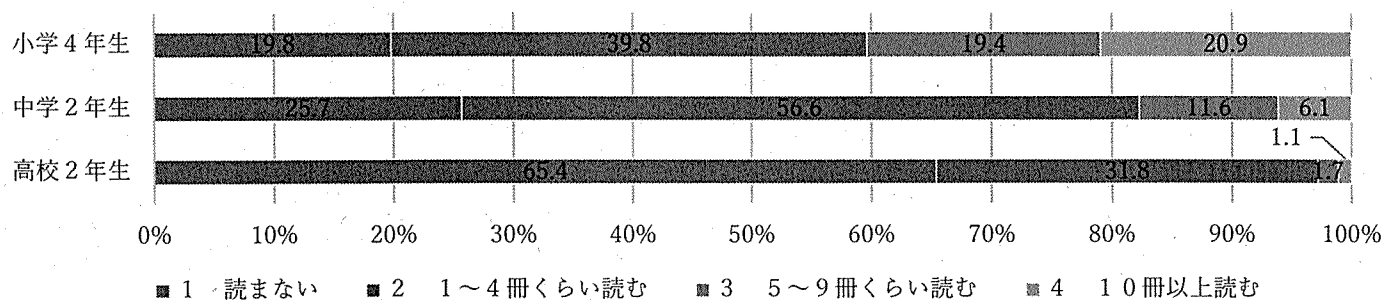


- 保護者が読書の大切さを理解し、自ら進んで読書をする
- 家庭において読みきかせを行い、子どもと一緒に本に親しむ
- 本に親しむ市のイベント（本の展示会や図書館まつりなど）を開催する
- 「読書の時間」を学校に設ける
- 子どもに読書への興味を持たせるように教職員等が指導する
- その他
- 無効

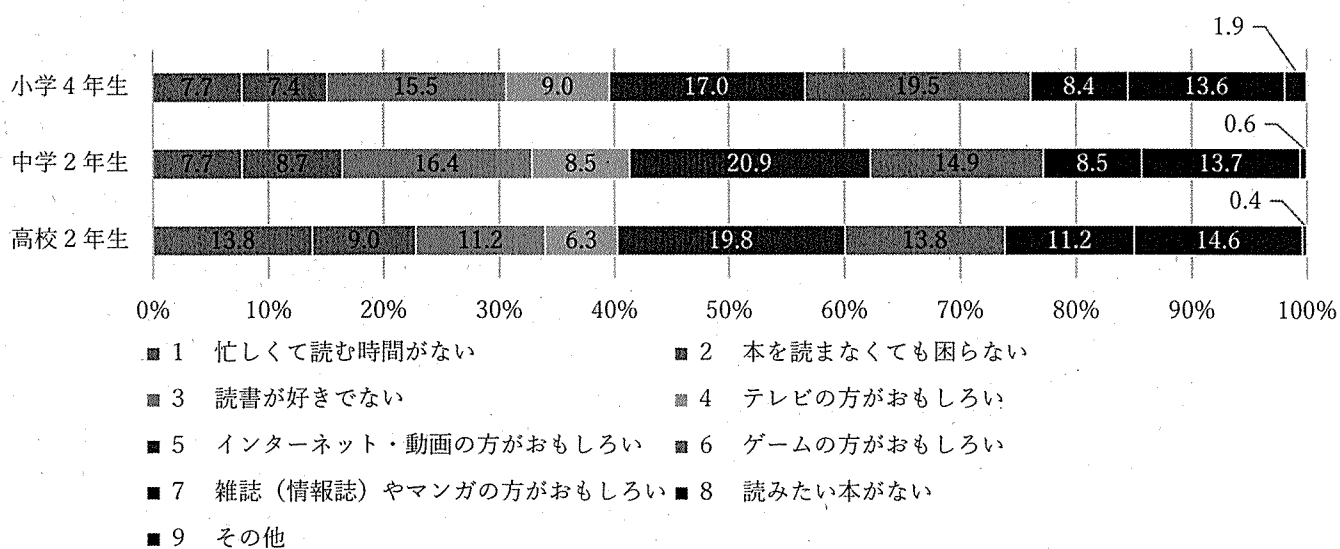
第1次及び第2次計画時と比べ大きな変化はなかった。



問1 あなたは、1ヶ月にどれくらい本を読みますか？



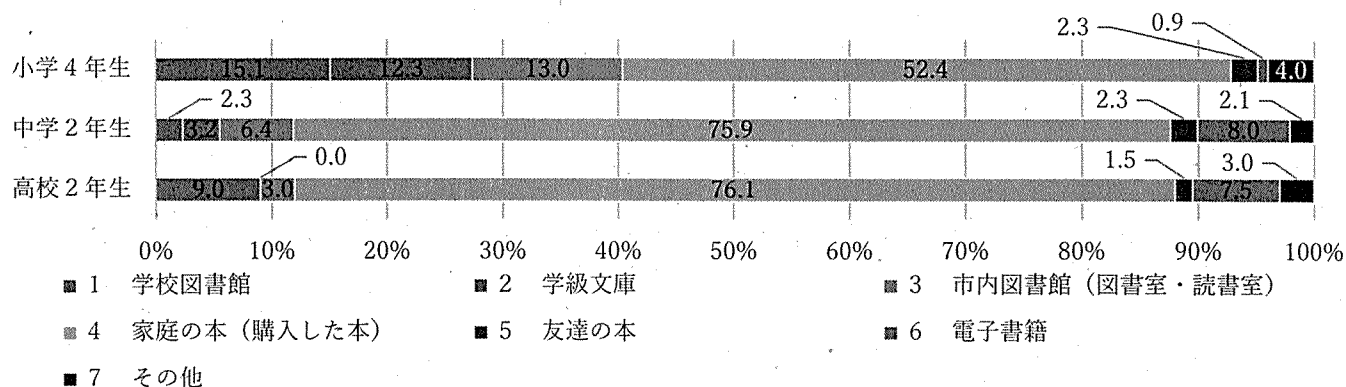
第2次計画時と比べると、「読まない」と回答した小学生及び高校生が増えている。

問2 問1で「1 読まない」と答えた人は、どうしてですか？
(複数回答可)

第3次計画策定にあたり「インターネット・動画の方がおもしろい」及び「ゲームの方がおもしろい」の選択肢を追加した結果、それぞれ3割以上がこの選択肢を選んでいる。

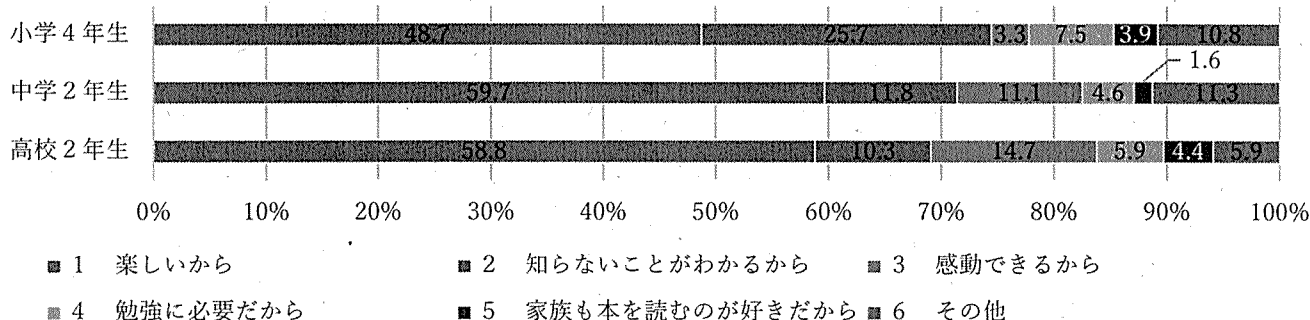


問3 問1で「読む」と答えた人は、どこの本をよく読みますか？



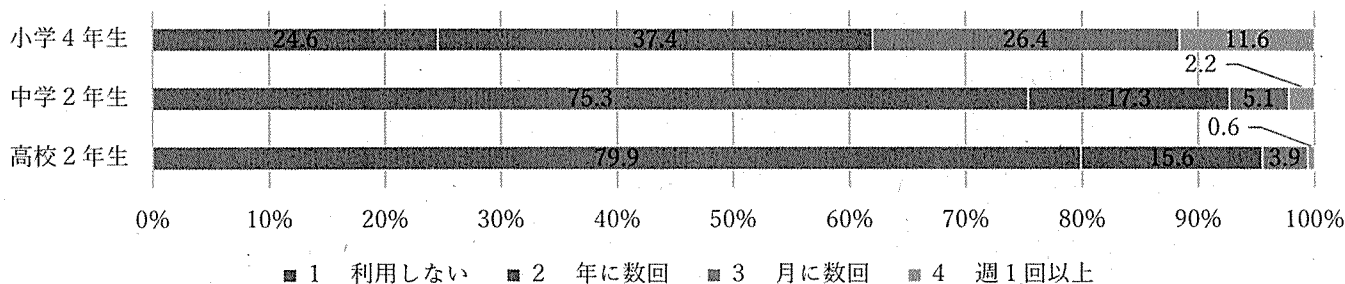
第1次及び第2次計画時と比べて大きな変化はなく、「家庭の本 (購入した本)」が圧倒的に多い結果となった。

問4 問1で「読む」と答えた人は、本を読む理由を教えてください。



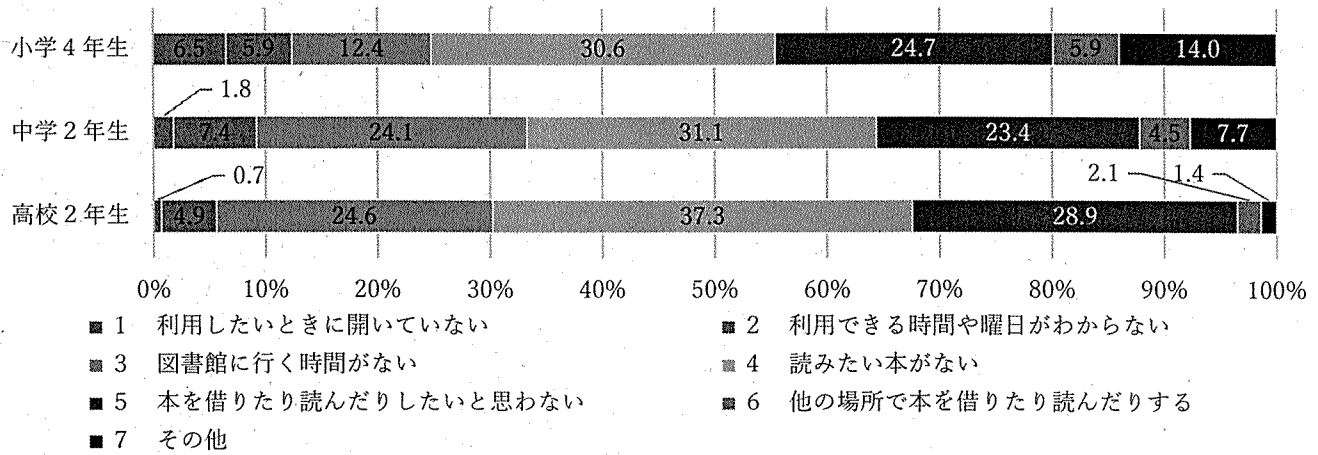
第1次及び第2次計画時と比べ、大きな変化はなかった。

問5 本を借りたり読書をしたりするために、学校図書館をどれくらい利用しますか？



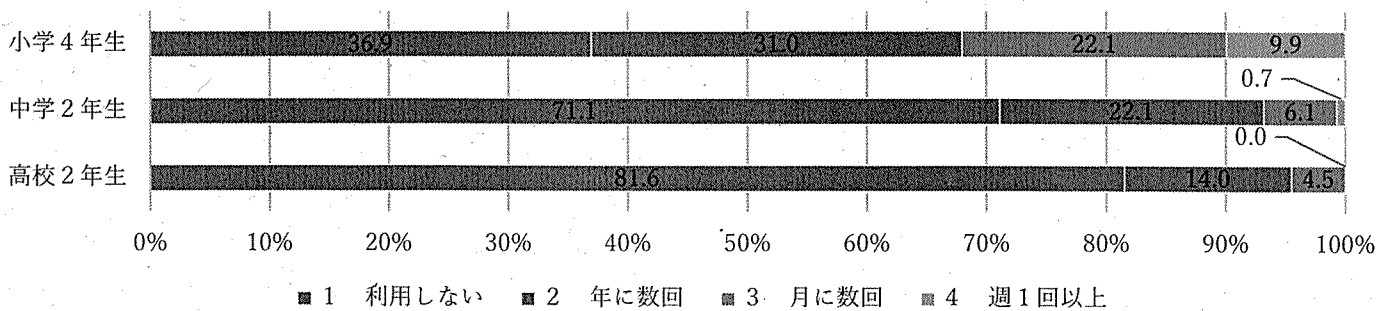
第1次及び第2次計画時と比べると、小学生の「利用しない」割合が倍程度になっている。

問6 問5で「利用しない」と答えた人は、なぜですか？



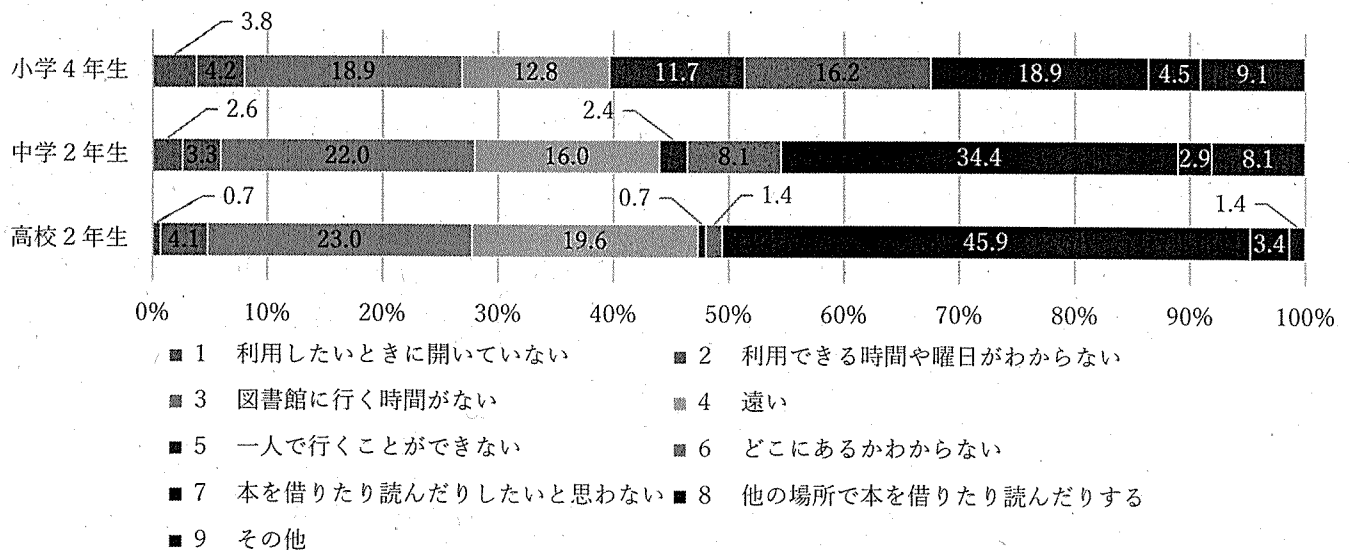
第3次計画策定にあたり追加した新規項目である。それぞれ「読みたい本がない」と回答した割合が3割以上となっている。

問7 本を借りたり読書をしたりするために、市内図書館（図書室・読書室）をどれくらい利用しますか？

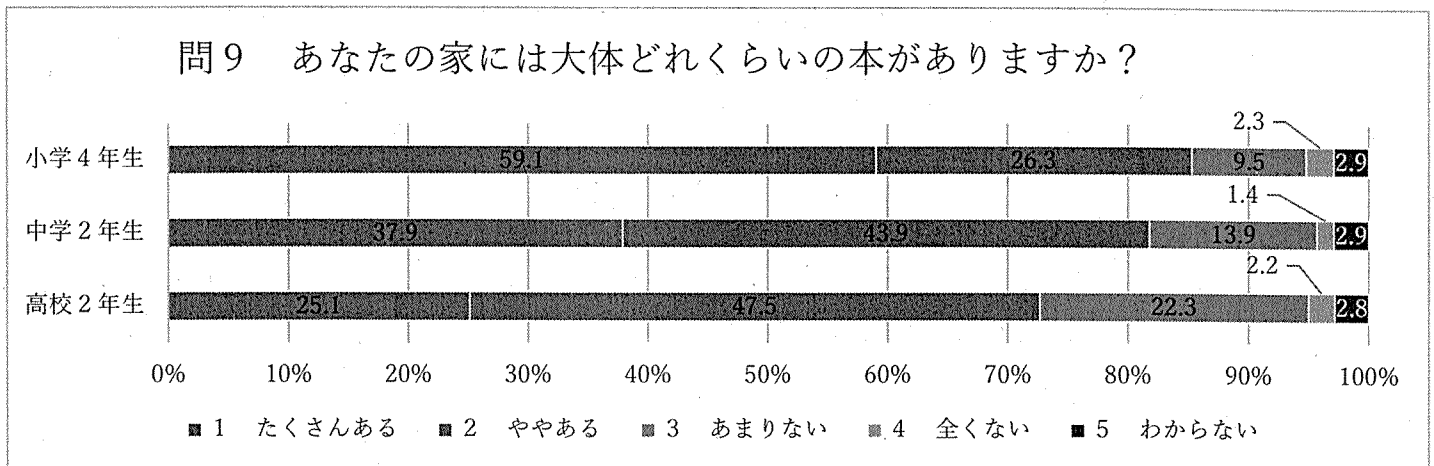


第1次及び第2次計画時と比べると、全体的に「利用しない」と回答した割合が増えている。

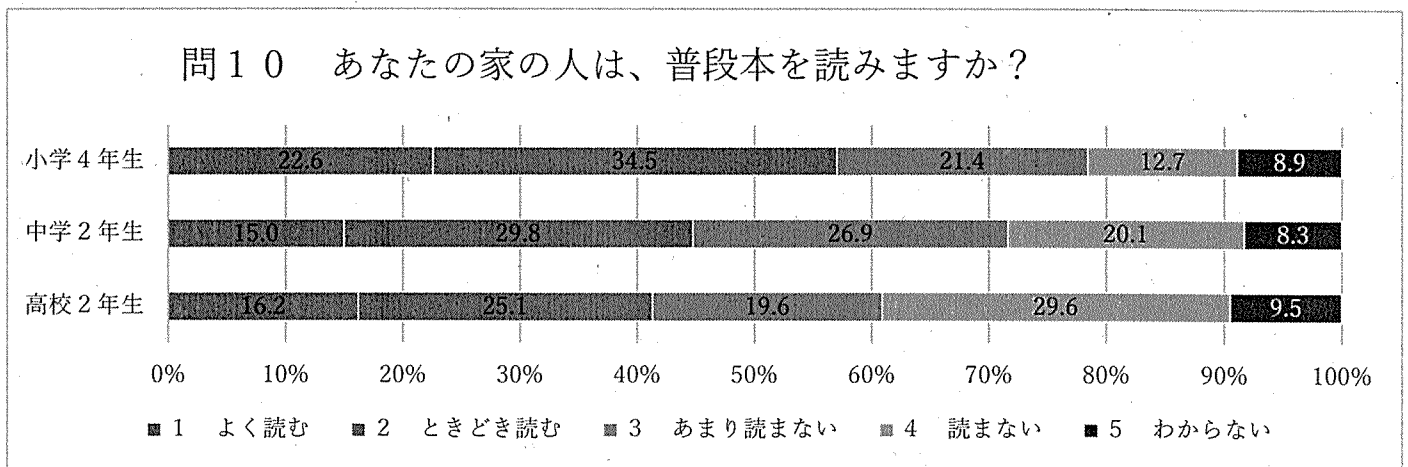
問8 問7で「利用しない」と答えた人は、なぜですか？



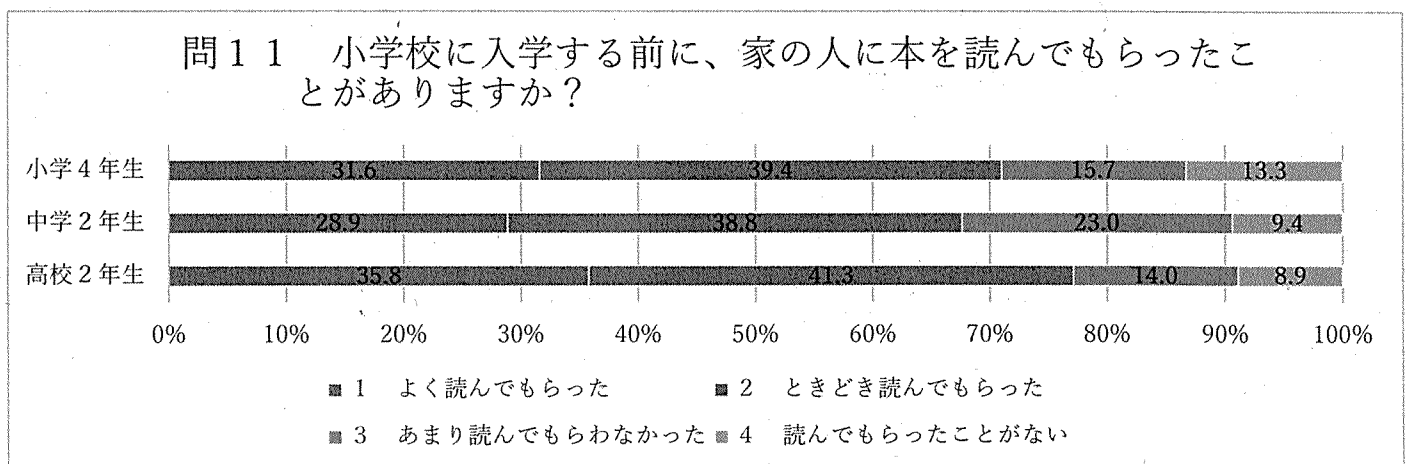
第3次計画策定にあたり追加した新規項目である。高校生は「本を借りたり読んだりしたいと思わない」と回答した割合が半分程度となっている。



第3次計画策定にあたり追加した新規項目である。「たくさんある」及び「ややあり」と回答した割合が7割以上となっており、ほとんどの家庭では家で読書ができる環境が整っていると推測される。

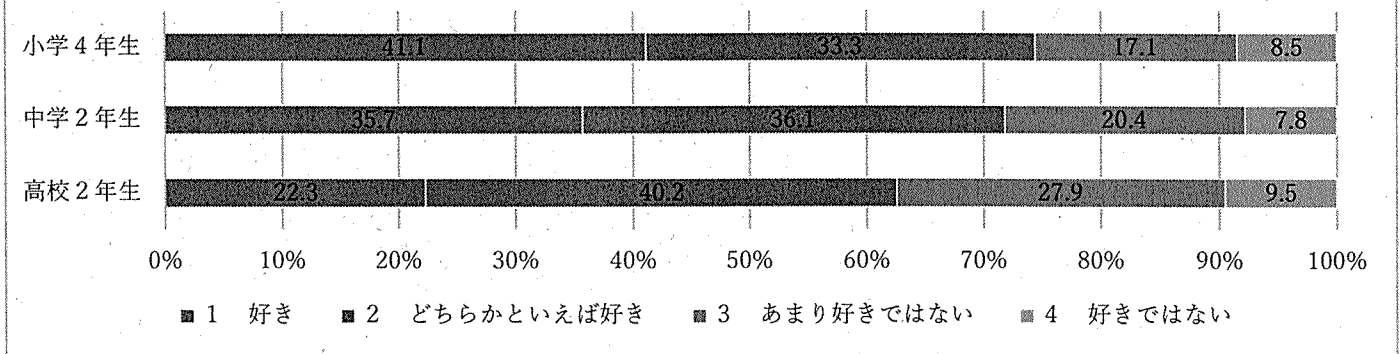


第3次計画策定にあたり追加した新規項目である。問1及び問9の回答とクロス集計を行った結果、問1で「本を読まない」と回答した人は「家の人も普段本を読まない」と回答しており、家に本が「ややある」または「あまりない」割合が多いことから、家庭内の読書環境が「子どもが本を読まない」ことに関わっていると推測される。



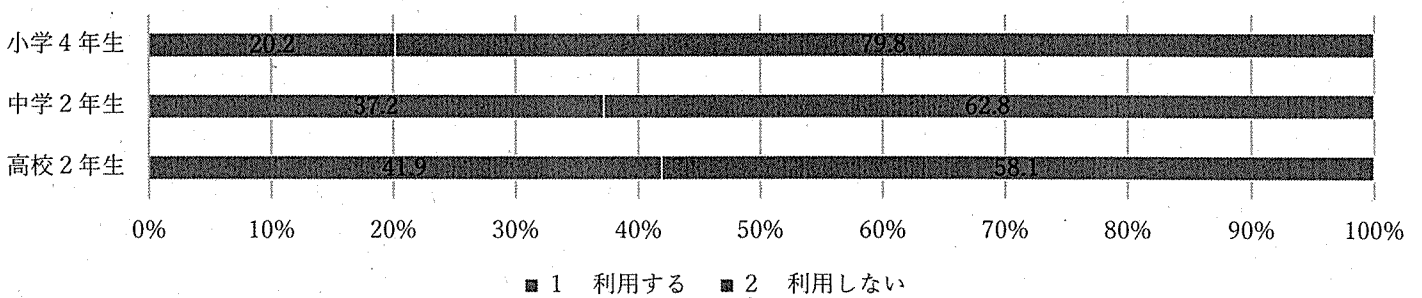
第1次及び第2次計画時と比べ、大きな変化はなかった。

問12 あなたは、本を読むことが好きですか？



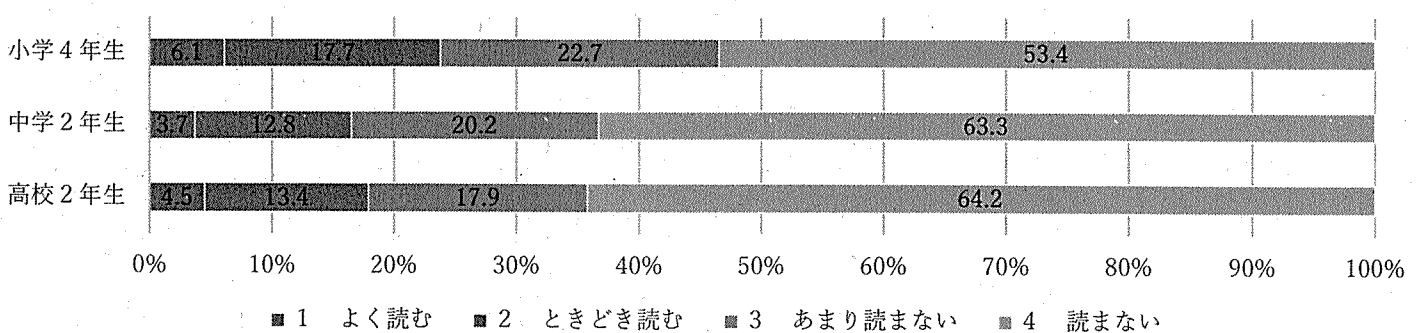
第1次及び第2次計画時と比べ、高校生の「好き」及び「どちらかといえば好き」と回答した割合が10%程度減少しており、読書離れが進んでいることがうかがえる。

問13 あなたは、普段電子書籍を利用しますか？



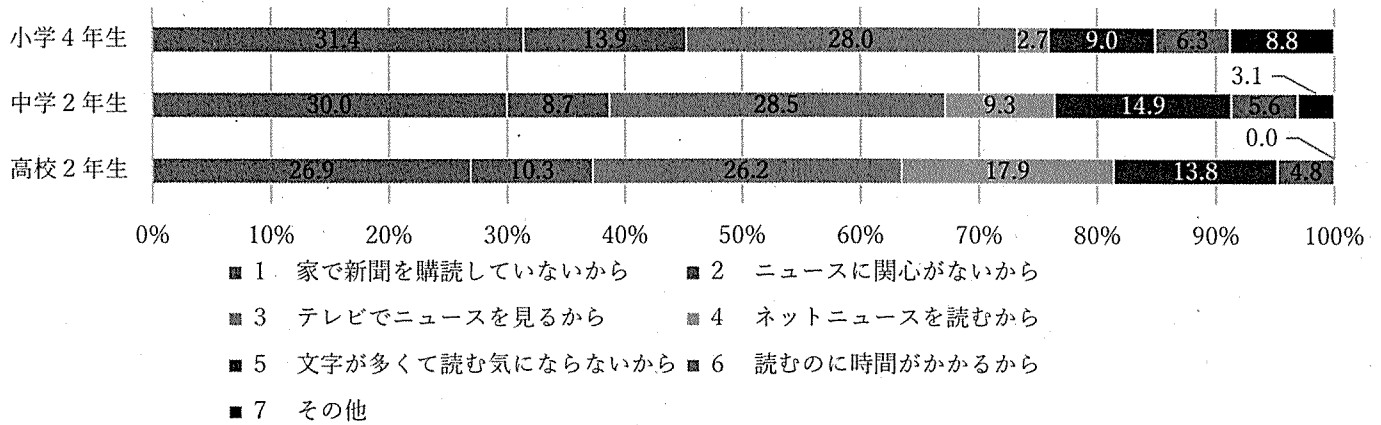
第3次計画策定にあたり追加した新規項目である。電子書籍を利用する割合は、学年が上がることに伴い増えていることがうかがえる。

問14 あなたは、新聞（電子版を含む）を読みますか？



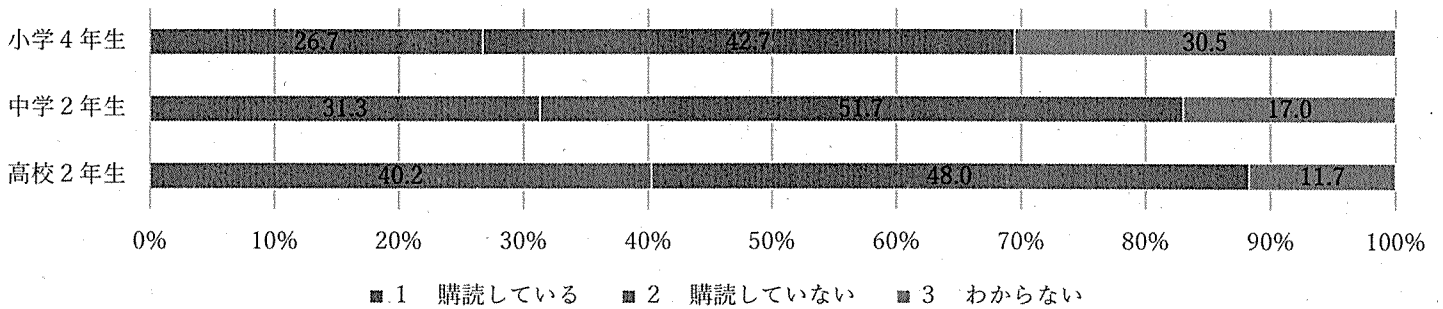
「あまり読まない」の選択肢を追加した結果、第2次計画時では「時々読む」と回答した人が「ときどき読む」と「あまり読まない」に分かれた。「あまり読まない」及び「読まない」と回答した割合がそれぞれ8割程度となり、全体的に活字離れが進んでいることがうかがえる。

問15 問14で「あまり読まない」「読まない」と答えた人は、なぜですか？



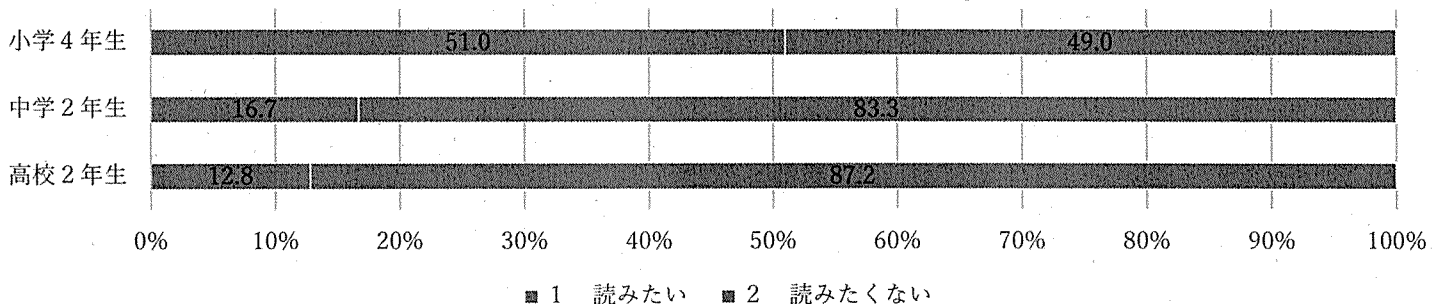
第3次計画策定にあたり追加した新規項目である。「家で新聞を購読していないから」が3割程度となり、「テレビでニュースを見るから」及び「ネットニュースを読むから」と回答した人も3割程度いることから、情報を得る手段として新聞を選ぶ家庭が減っているのではないかと推測される。

問16 あなたの家では、新聞（電子版を含む）を購読していますか？



第3次計画策定にあたり追加した新規項目である。5割程度の家庭で新聞を「購読していない」という結果となった。

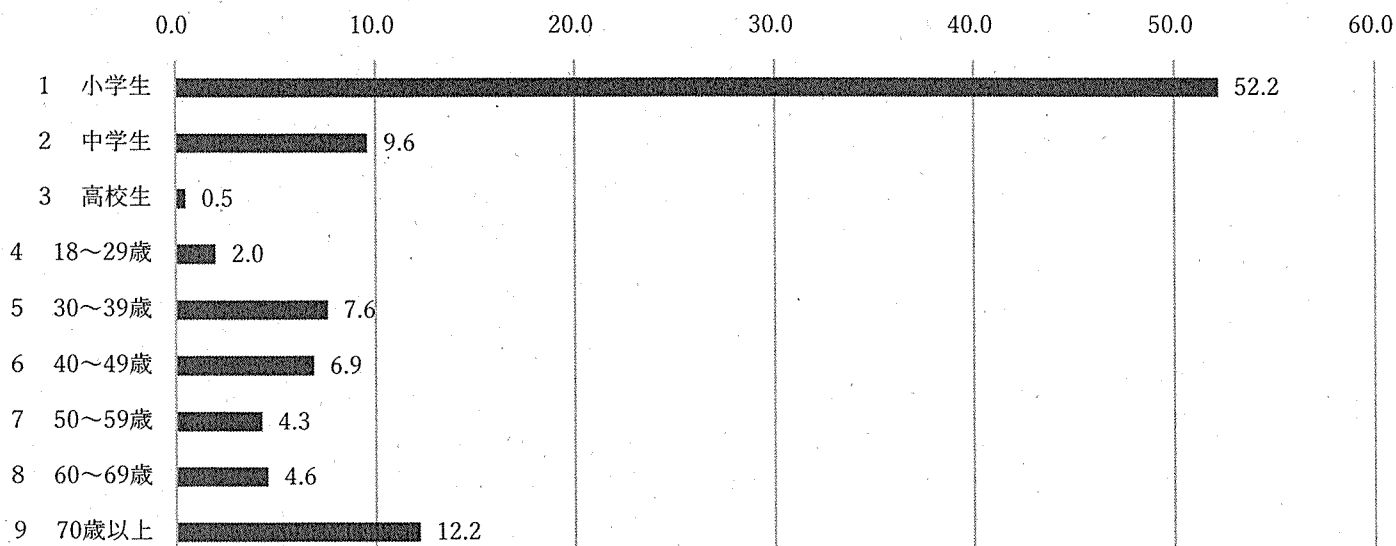
問17 学校図書館に新聞（子ども向け新聞含む）があったら読みたいですか？



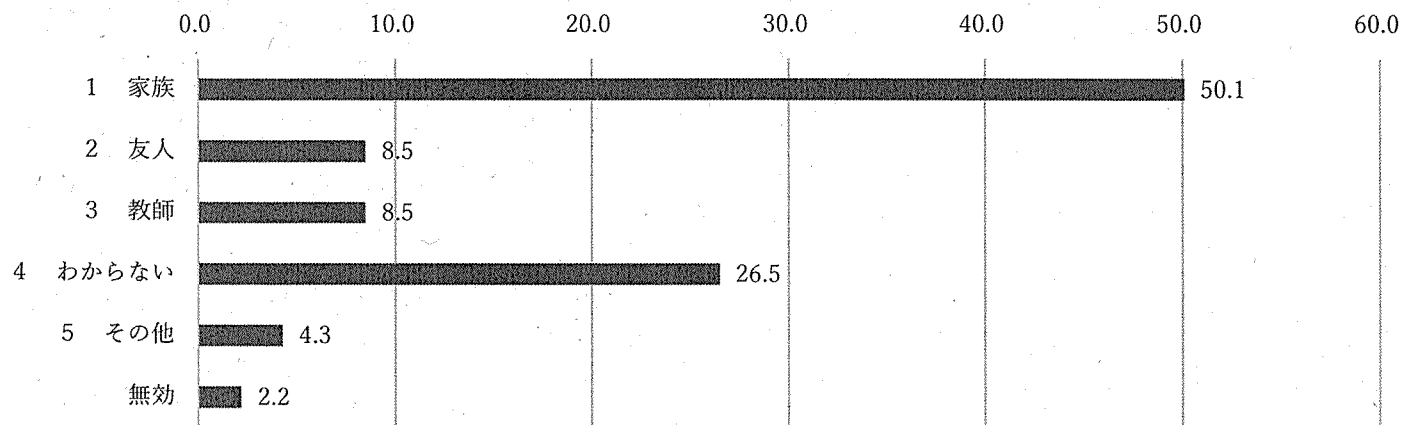
第3次計画策定にあたり追加した新規項目である。小学生は新聞に関心がある人が多かったが、中学生及び高校生は8割以上が新聞を「読みたくない」と回答している。

※第3次計画策定にあたり新しく調査したものであるため、第2次からの比較検討は不可。

問1 あなたの年代を教えてください。



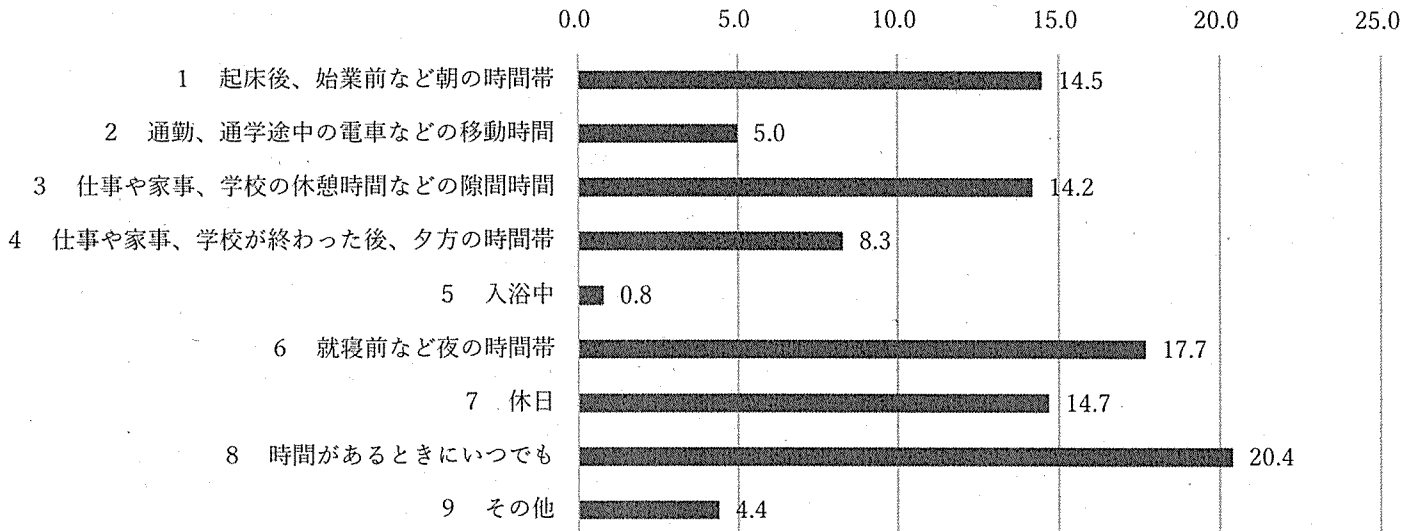
問4 あなたが読書を始めるきっかけになった人はいますか？



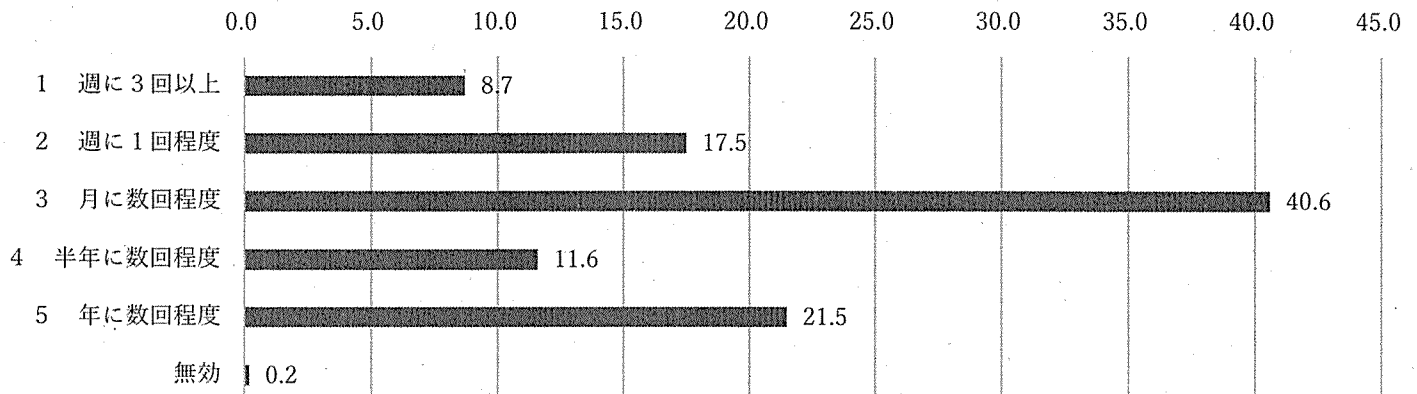
「家族」が最も多かった。「わからない」と回答した人のうち、問3で「幼少期に親から読みきかせを受けたこと」や「学校の図書室に行ったこと」、「家に本があり、手に取りやすかったこと」を選んでいる割合が多いことから、問3の結果と同様に身近に本があることが読書を始めるきっかけとなっていると推測される。



問5 あなたが、普段読書をする主な時間帯はいつですか？
(複数回答可)

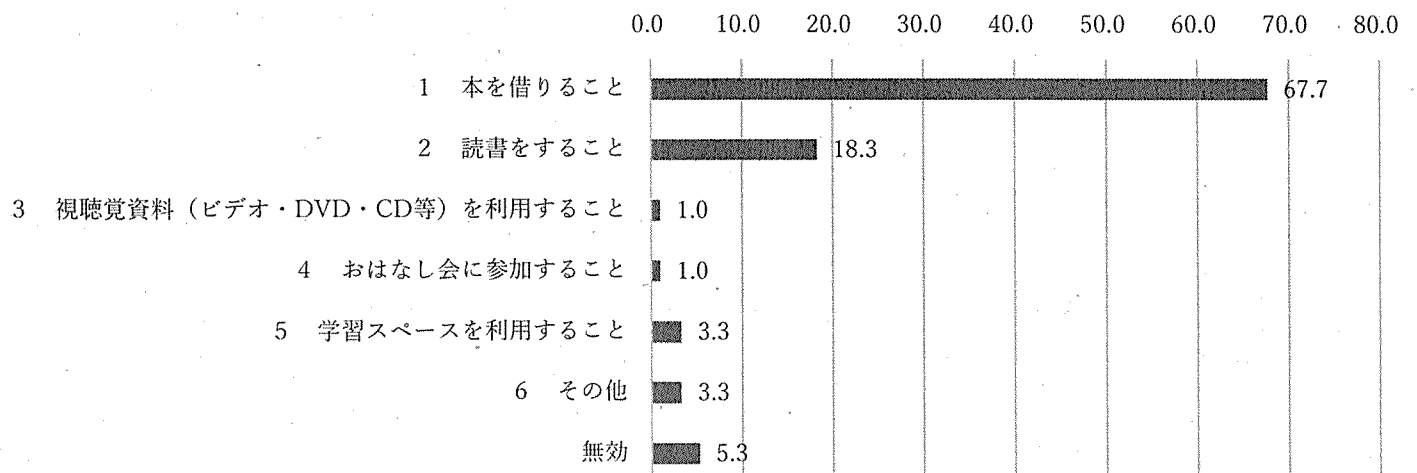


問6 あなたはどれくらいの頻度で図書館を利用しますか？

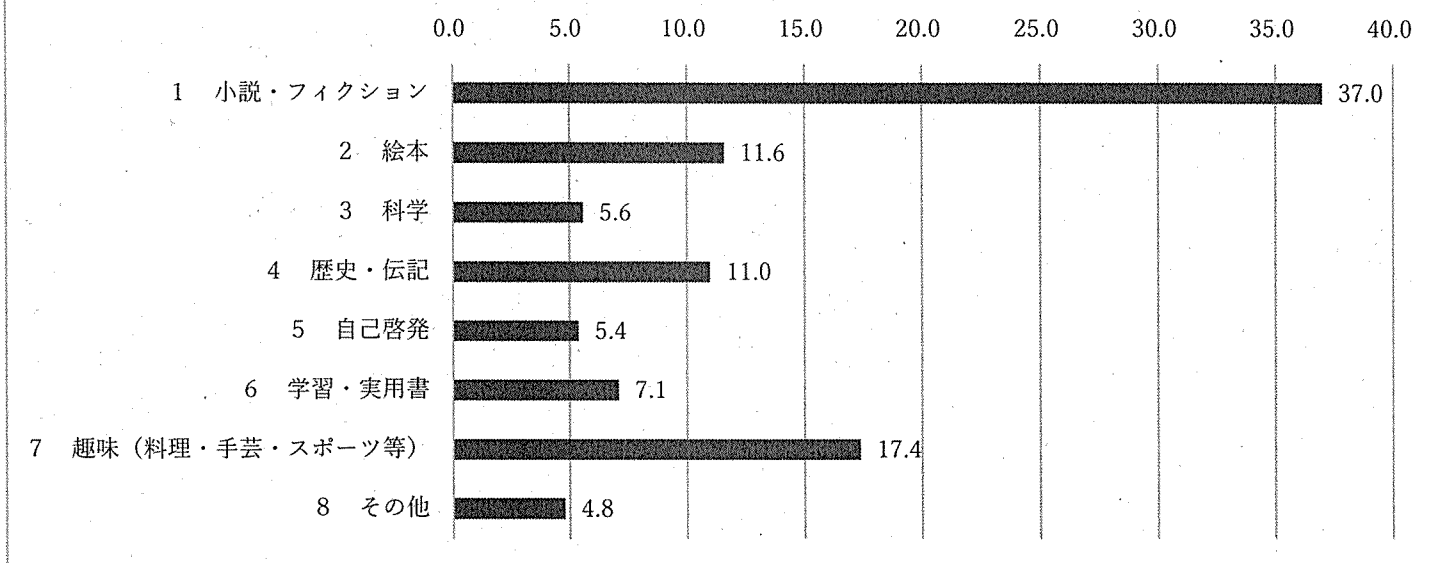


「月に数回程度」と回答した人が最も多かった。

問7 図書館を利用する主な目的はなんですか？

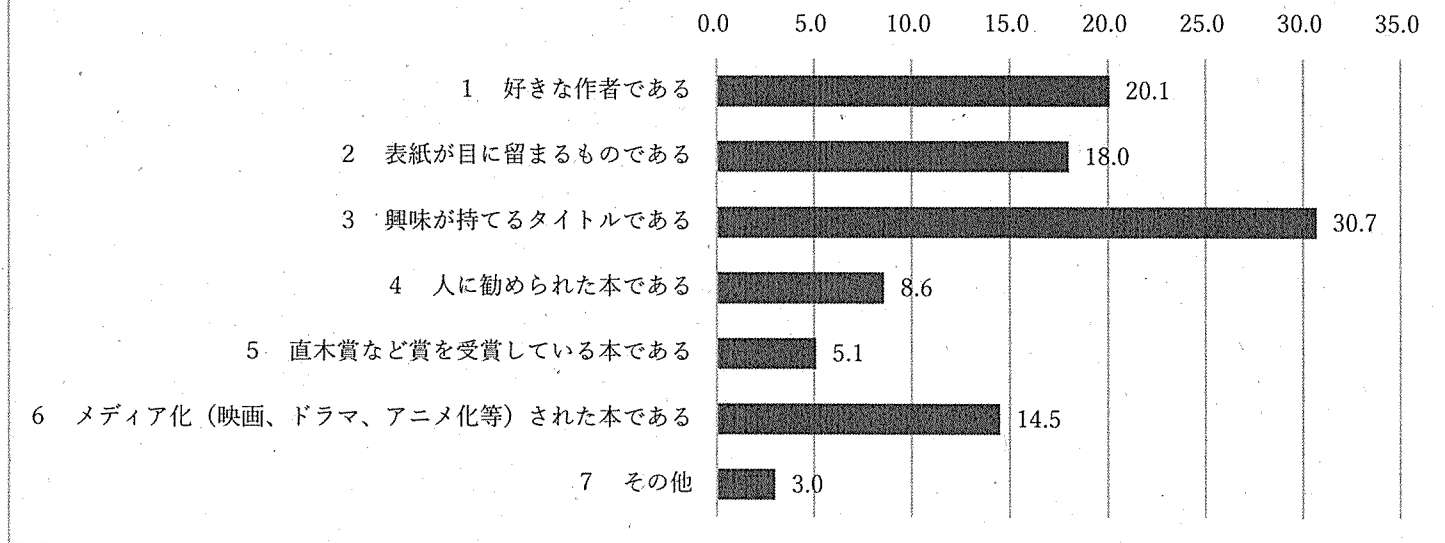


問9 あなたが普段よく読む本は、どんなジャンルの本ですか？
(複数回答可)



「小説・フィクション」及び「趣味」の本を読む割合が多かった

問10 あなたは本を選ぶとき、何を基準に選びますか？
(複数回答可)

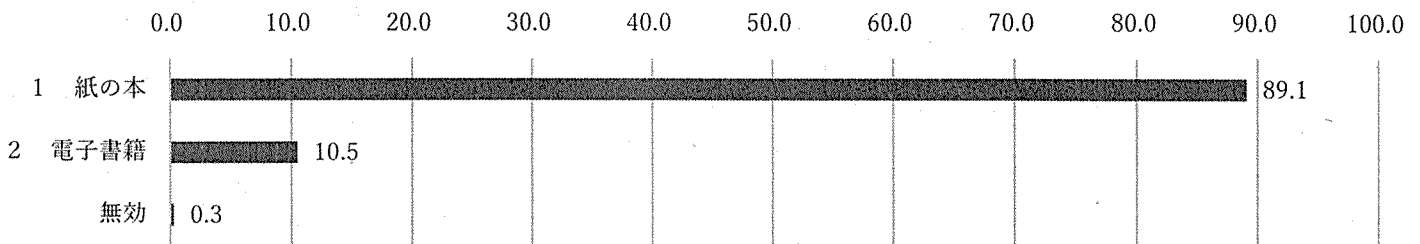


「表紙が目に残るものである」及び「興味が持てるタイトルである」本を選ぶ人が5割程度という結果となった。



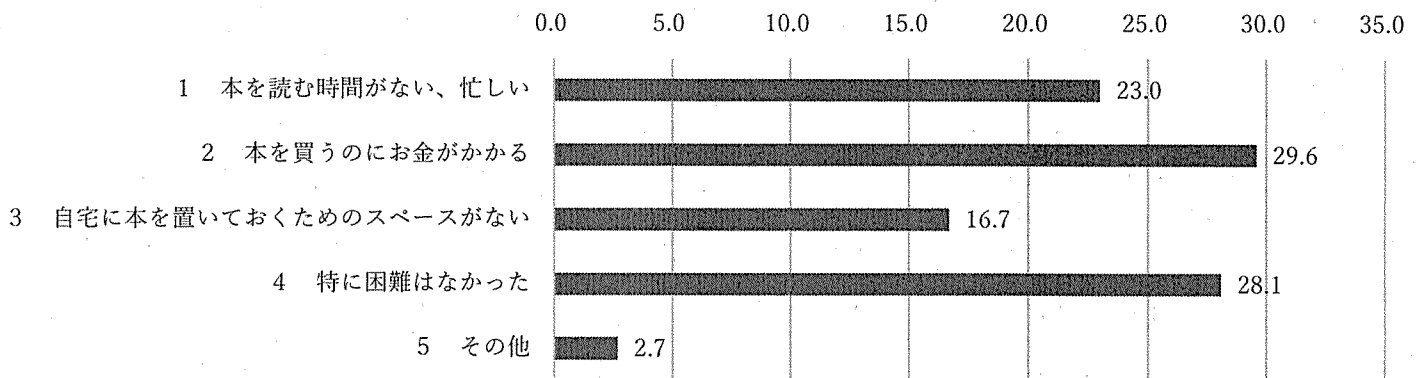
問11 あなたは、紙の本と電子書籍のどちらが好きですか？

また、その理由を教えてください。

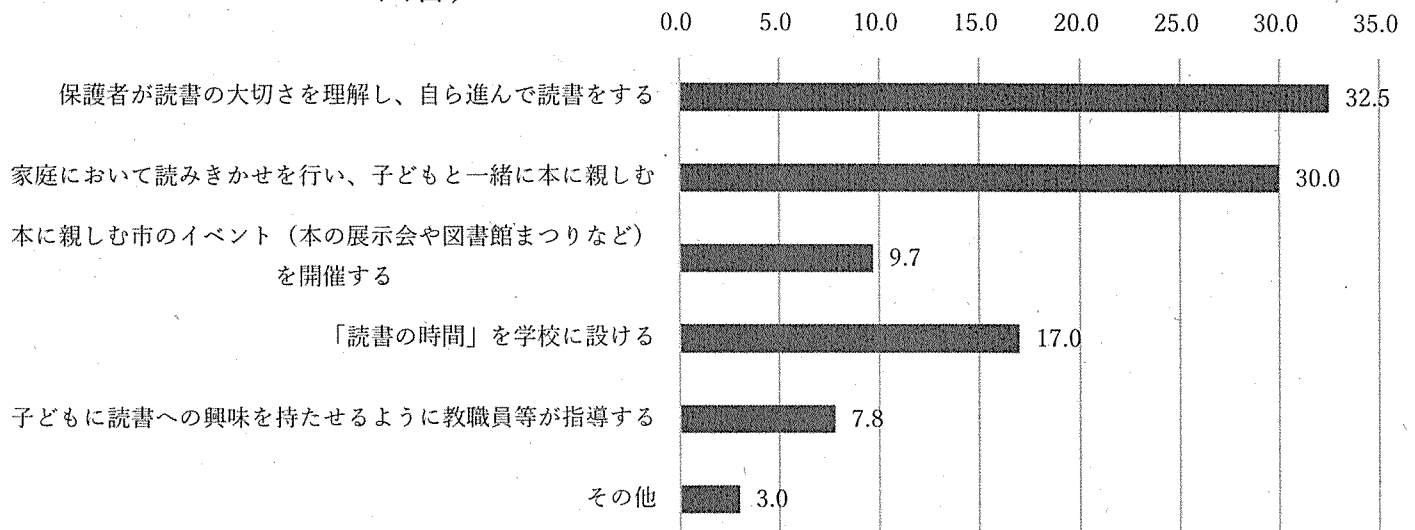


「紙の本が好き」という回答が圧倒的に多く、主な理由としては「紙の本の方が読みやすい」という結果となった。

問12 読書を続けるうえで、何か困難はありましたか？
(複数回答可)



問14 あなたが、子どもの読書活動を進めるうえで、最も効果的
だと思うものはどれですか？ (複数回答可・18歳以上のみ
回答)



「保護者が読書の大切さを理解し、自ら進んで読書をする」及び「家庭において読みきかせを行い、子どもと一緒に本に親しむ」と回答した割合が合わせて6割程度となったことから、家庭において読書ができる環境を整えることが効果的と考えている人が多いことが推測される。

アンケートには質問によって回答に「その他()」等の選択肢があり、選択した場合の有効で代表的な記述を掲載します。

3歳児保護者

○ブックスタートアンケート

Q4 ブックスタート事業について、ご意見・ご感想がありましたらお書きください。

- ・どんな絵本が子どもたちにおすすめなのですか？
- ・図書館へ通うきっかけになり、また兄弟でお揃いのトートをもって嬉しそうな姿を見れよかったです。
- ・今でも「かにこちゃん」を読んでいます。
- ・ブックスタートをきっかけにたくさん本を読むようになりました。ありがとうございます。
- ・赤ちゃん向けの絵本がいただけるのでうれしいです。

年長児保護者

Q3 本を読まない主な理由は何ですか？

- ・コロナ流行時に図書館利用をやめた
- ・読みたいときじゃない。
- ・読書に興味がない
- ・視力低下
- ・本の情報が入ってこない、興味がある本が無い
- ・家事をしながらラジオや動画を観ることが多いため。
- ・本は高いし、図書館が近くないのでわざわざ借りに行かない

Q10 あなたが、お子さんに読みきかせを始めたきっかけは何ですか？「5その他」

- ・子どもの成長に大切だと知っていたから、読み聞かせが良いと聞いていたから等
- ・するのが当たり前だと思っていたから
- ・子供が本に興味をもったから
- ・赤ちゃん用の本があったから
- ・プレゼントでいただいたことをきっかけに
- ・特にきっかけはない

Q14 あなたは本を借りたり読書するために、市内図書館(室)・読書室をどのくらい利用しますか？

- ・借りに行く時間がない
- ・買うことの方が多いから
- ・場所を知らない
- ・遠いから
- ・子どもを連れて行きにくい、子どもが静かにしてくれないと思わない、破損が不安
- ・利用しようと思わなかったから、興味がない
- ・行くのがめんどくさい
- ・家に本があるから
- ・読みたい本がない、少ない

- | | |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・市外の図書館を利用しているため（清須・名古屋市等） ・行く機会がない ・理由は無い ・本を読まないから | <ul style="list-style-type: none"> ・返却がめんどろ ・好きではないから ・行きにくい ・コロナ対策のため |
|---|--|

Q15	あなたが、子どもの読書活動を進めるうえで、最も効果的だと思うものはどれですか？
------------	--

○家庭における推進

- ・子供が興味を持った本を購入して読ませる。
- ・興味のある本を自ら選んで読む
- ・本しかなくて、快適な環境。自分で読ませるなら、漫画を否定せず、漫画と文章ページが混在する本も認めてあげること。
- ・環境づくり
- ・子供が生活の中で興味のある事やジャンルを日頃から観察して読みたいと思うものをタイミングよく提供する。
- ・楽しい本が家にたくさんある（すぐ手に取れる）

○園・学校における推進

- ・保育園で園児が選んだ一冊を貸出する
- ・園や学校で読書時間を十分に設けて、読書する習慣を身につける。
- ・高学年が低学年に本を読み聞かせる時間をつくる

○図書館における推進

- ・図書館がもう少し子供が楽しめるような場所になれば良いと思う。階ごと空間ごとに喋ったり本を観ながら話せるような作りの図書館や、作り自体楽しめるような場所があればいいと思います。
- ・甚目寺の図書館をもっと大きくよくしてほしい

○その他

- ・ネット広告に絵本の画像広告を入れる
- ・環境が整っていても読まない人は読まない。読みたい人は読む。
- ・興味があることは勝手に読むようになっているので、特に必要ない
- ・子の性格次第

Q16	読書活動に関するご要望があればご記入ください。
------------	--------------------------------

○図書館に関すること

- ・七宝地区にも大きい図書館を作って欲しいです。
- ・美和図書館は大きいですが、甚目寺図書館は小さく本が少ない。美和図書館は遠く、利用しにくい。
- ・図書館がもっと充実してほしい。
- ・あま市役所の中にも図書室を作って頂けると嬉しいです。
- ・もっと子供が自ら行きたいと思えるような空間の図書館作りをしてほしい。
- ・図書館へ子どもと行ったことはあるが本が多すぎてか子も親も選べずに帰ったので、どのくらいの子におすすめの本がどの辺に置いてあるかわかると親も子に選ばせやすいと思った。
- ・美和図書館の読書ラリーを通年イベントにしていきたいです。

- ・子供を図書館に連れて行くことはなかなか難しいので、保育園で借りた本を家で一緒に読める取り組みはとてありがたいなと思います。子供がどんな本を借りてくるのか、毎回楽しみにしています。
- ・図書館にもっと話題の新作絵本、大人も新刊をいれてほしい。
- ・近くに図書館や移動図書があったらいいなと思います。
- ・大型絵本の読み聞かせ等のイベントがあると嬉しいです。

○家庭に関すること

- ・子どもが自ら読書をするよう、家ですぐ手に取れる場所に本を置くことが大事だと思う。
- ・子どもがなかなか本を好きになってもらえない。親の選ぶ本と子どもの好きな本が違うのかもしれないと思うが、子どもがもっと本に触れる機会が増えるといいと思う。
- ・子供が大きくなるにつれ、読み聞かせよりも YouTube やゲームを好むようになってきました。本を好きで居続けられるような活動があればよろしくお願いします。

○園・学校に関すること

- ・学校で借りれる本の数が少ないので増やしてほしい。
- ・学校図書の充実を希望します。
- ・学校の図書館などで、本を沢山借りた子に対して表彰する、地域の図書館でも、子供に対して同じようにして本を読む事にインセンティブを与えるのがモチベーションになって子供にとっては良いと思います。また、表彰された子に借りてよかった本のオススメコメントの POP を書いてもらおうと、他の人も借りてみようと思うのでは無いでしょうか。
- ・園や学校で読書の時間を増やしてほしい。
- ・字を読むことがスムーズにできるようになる小学校低学年時に、担任の先生が授業の隙間時間に少しづつ読み聞かせをしてくれることは効果的だと思います。私自身、小学生の頃に、自分の親だけでなく先生にも読み聞かせをしてもらったことをよく覚えています。
- ・休日に3人連れて図書館へ行くのは気が引けるので、保育園からの貸出の回数もしくは冊数を増やしてもらえると嬉しいです。
- ・保育園に置いてある本はボロボロのものが多く、借りてくる絵本も綺麗ではないものもある。物を大事にすることは大切だが、子どもが綺麗、読みたいと思わせるためには、今の予算にプラスして絵本用の予算を上げて頂きたい。
- ・保育園で絵本を借りられるのはとても有難いので、今後も続けてほしいです。図書館が遠くなかなか行けないので、保育園でも決まった日にちだけでなく、借りたい時に借りられる制度があると嬉しいと思います。

○その他

- ・子供向けの本を全部読み切るのではなく、一番気になる部分の手前まで読む。など自分から本を読む、知りたい、借りたいなどのきっかけとなる活動があればなあっと思います。
- ・支援活動という意味では本当にシンプルに図書券や絵本購入時に使えるはぐみんカードのようなものがいただける機会があれば活用したいです
- ・沢山の人が興味を持って軽い気持ちで手に取れるような漫画レンタルのようなコーナーがあってもいいのでは？本と違って流行り廃りがあり、新刊もコンスタントに発売されるので、コスト面で無謀かもしれませんが1つの意見として。
- ・多読賞など、読書を推奨できるような賞を、設けるのも良いと思う

- ・みんなに本を好きになってもらうのも大事だとは思いますが、元々読書が好きな子たちがもっと好きになれる活動があっても良いと思います。
- ・本を読むことが大切だとは思っても、生活の中に本に触れる環境がないと、こんな本読みたいなあ。こんな本もあるんだあ。と思うこともないので、まず、本に触れる機会をたくさん作りたと思っています。家庭でも学校でも社会でも本に触れる機会がたくさんあると嬉しいです。
- ・読書は大切なのはすごく理解していますが、その時間を作るのがとても難しい現状である。
- ・各学年・年齢ごとに、おすすめの本を紹介してほしい
- ・リクエストを聞いて、本をおいてもらう。本の感想を聞いて、掲示したりそのおすすめコーナーを作ってみたりする。

小学生

Q4 問1-1で「本を読む」と答えた人は、本を読む理由を教えてください。

- ・面白いから
- ・読書が好きだから、物語が好きだから、文字を読むのが好きだから
- ・暇な時
- ・親が読むように勧めるから

Q6 問5で「図書館を使わない」と答えた人は、どうしてですか？

- | | |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・家に本があるから ・読みたい本は、買うから ・美和図書館 | <ul style="list-style-type: none"> ・読みたいのが無いから ・市内図書館 ・返す期間や行きや帰りがめんどくさいから |
|---|---|

Q8 問7で図書館を「使わない」と答えた人は、どうしてですか？

- | | |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・家庭の本を読むから ・いかない、行きたいと思わない | <ul style="list-style-type: none"> ・欲しい本は次々と買ってるから ・読みたくないから |
|---|--|

Q15 問14で「あまり読まない」「読まない」と答えた人は、どうしてですか？

- | | |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・面白くない、つまらないから ・読まない、読みたくない、読もうと思わないから ・わからない漢字があるから ・読む時間がない ・知らなかったから | <ul style="list-style-type: none"> ・天気や目立つ記事など気になるものしか読まないから ・家がかくしているから ・家に新聞がないから ・ゲームをするから |
|---|---|

中学生

Q2 問1で「本読まない」と答えた人は、どうしてですか？

- ・嫌いではないけど、読むほど好きではない
- ・読む
- ・そんな事するならサッカーしたい

- ・インターネットにある二次創作の小説や漫画ばかり読んでいるためお金を払って読む書籍はあまり読まない。

Q4 「本を読む」と答えた人は、本を読む理由を教えてください。

- ・暇つぶし
- ・朝読書の時間に本を読まなければいけないから
- ・面白いから

- ・本を読むのが好きだから
- ・特に理由はない、なんとなく
- ・読まないといけないから

Q6 「図書館を利用しない」と答えた人は、なぜですか？

- ・家に本があるから、自分で本を持っているから
- ・本はじっくり何回も読みたいから、自分のペースで読みたいから
- ・借りる方法が分からない、貸出期間がわからない

- ・行くのがめんどくさい
- ・期限が設けられており、自分のペースで読めないから、貸出期間が短い
- ・読みたい本が図書館にないから
- ・興味がない、行く気がない

Q15 問14で新聞を「あまり読まない」「読まない」と答えた人はなぜですか？

- ・新聞の匂いが嫌い
- ・読もうと思わない
- ・読む時間がないから

- ・つまらない、面白くない
- ・読むのがめんどくさいから

図書館利用者

Q3 あなたが、本を読むようになったきっかけは何ですか？

- ・保育園の先生に読み聞かせをもらった
- ・本があったから
- ・本を買って読んでみたら面白かったから
- ・家族や親戚が本を買ってくれたから

- ・興味をもったから
- ・文字が好き
- ・電車など移動時間の暇つぶし
- ・星座や宇宙が好きで、そこから科学の本や図鑑

- ・などを読むようになった
- ・担任の先生が読み聞かせをしてくれたこと
- ・覚えていない

- ・退職して時間にゆとりが出来たこと
- ・時間が空いた時の過ごし方

Q4 あなたが読書を始めるきっかけになった人はいますか？

- ・いない
- ・自分自身
- ・親戚

- ・従兄弟
- ・保育園の先生

Q5 あなたが、普段読書をする主な時間帯はいつですか？

- ・学校の読書タイム、朝読
- ・暇な時
- ・学校の休み時間
- ・読みたくなったら

- ・普段読書しない
- ・今は読めていない
- ・ほとんど読まない
- ・朝の時間

Q9 あなたが普段よく読む本は、どんなジャンルの本ですか？

- ・漫画
- ・図鑑
- ・ノンフィクション
- ・雑誌（芸能、ファッション、美容）

- ・物語、ノベル
- ・エッセイ本
- ・勉強の本

Q10 あなたは本を選ぶとき、何を基準に選びますか？

- ・好きなもの、テーマ、人
- ・基準はない、適当
- ・好きなシリーズ
- ・新聞、雑誌にのっていた本
- ・面白そうな本

- ・読みやすいと思った文庫の本、好きな文庫から出ていること
- ・内容
- ・おすすめにあった

Q11 あなたは、紙の本と電子書籍のどちらが好きですか？また、その理由を教えてください。

「1 紙の本」

- ・読みやすいから、見やすいから
- ・いつでも、どこでも、好きな時にすぐ読めるか

- ・ら
- ・紙をめくるのが気持ちいい、楽しい、ページを

めくるワクワク感がある

- ・目が疲れない、目を痛めない
- ・途中から読みやすい、好きに戻れる、繰り返し読める等自由に読めるから
- ・紙に慣れているから、馴染みがあるから
- ・電子書籍を読んだことがない、電子書籍がわからない
- ・ちゃんと本を読んでいる感じがする、達成感がある
- ・紙のにおいや手触りなどが好きだから
- ・実際に手元に残るから
- ・自分のペースでゆっくり読めるから
- ・目が悪くならない
- ・めくりやすい
- ・スマホなどをもっていないから
- ・しおりをはさめるから、どこまで読んだか視覚的にわかるから
- ・いろんな本が読めるから、電子にはない本があるから
- ・紙の本を読むと、心が落ちつくから
- ・電子書籍だと電池切れになることがあるから
- ・実際に見ることができる、表紙があるから
- ・面白いから
- ・手に取って読めるから
- ・なんとなく、特にない
- ・手に取りやすいから
- ・スマホ持っていないなくても読めるから、学校でも

「2 電子書籍」

- ・いつでも、どこでも読めるから
- ・楽だから、手軽だから
- ・読みやすい
- ・破れないから、汚れないから
- ・場所をとらないから
- ・すぐ読める

読めるから

- ・お金がかからない、電子だと毎回買う必要があるから
- ・本の背表紙が並んでいるのが好きだから、そろえた時嬉しいから
- ・楽だから
- ・書いた人の気持ちが伝わるから、世界観に入りやすい
- ・アプリだと広告があるから
- ・見るのが楽しいから、読むのが楽しいから
- ・紙は色や絵がきれいだから
- ・静かに読めるから
- ・借りやすい、借りることができる
- ・電子書籍を見させてくれない
- ・読むことに集中できるから
- ・雰囲気がいいから
- ・買った感がある
- ・細かいところが読みやすいから
- ・紙や本の温かさ
- ・頁をめくることで記憶に残るから
- ・本は紙であるべき
- ・紙の本が好きだから
- ・文字が好きだから
- ・文字が大きいから
- ・こどもへの読みきかせ
- ・電子書籍が好きではないから

- ・こっちの方が面白い
- ・字をよむことによって勉強になる
- ・めくらなくてよいから
- ・字の大きさを変えられたり便利だから
- ・持ち運びしやすい

Q14 子どもの読書活動を進めるうえで最も効果的だと思うものは何ですか？

- ・自分から興味を持たせるために選ぶ。
- ・学校図書館に学校司書を常駐させ、子供達の本の相談にのったり、オススの本を直接渡してもらえらるような環境を整える。
- ・勉強という概念を主張するのではなく、趣味や好きなものを知るためにするものを伝える

- ・図書館に行き本をかりる
- ・取り敢えず本が読める前の0歳児から絵本でも与える事が大切です
- ・すぐ手に取れるところに本がある環境
- ・本人の気持ち
- ・子どもに自分の好きな本の紹介、プレゼンをしてもらう
- ・子どもに読書への興味を持たせるように教職員等が指導する対象はなるべく低学年で
- ・マンガ等でも良いから活字に対し興味を持たせる
- ・家に本が置かれていること
- ・気軽に本を読める。借りれる場所を作る。

Q15	読書活動に関するご要望があればご記入ください。
------------	--------------------------------

○図書館に関すること

- ・図書室や図書館の本の種類を増やしてほしい。
- ・本の値段が高いので図書館に置く本を最近発売された本にして欲しい
- ・甚目寺公民館の貸し出しカード式の貸し出し方法は、レトロ感があってよいとは思いますが、蔵書検索できる端末があるといいなと思います。
- ・駅から近い大きい図書館を建ててほしいです。
- ・これからもおはなし会を続けてほしいです
- ・図書館はなくさないでほしいです。
- ・甚目寺図書室に関しては、古い本は新しい本に取り替えて新しい新刊ばかりにしてほしい
- ・図書館、書店がもっと作品をアピールすること。

○園・学校に関すること

- ・本を読む時間を短くしてほしい
- ・読書習慣は、小さい頃からいつでも本が身近にあり、読み聞かせをしてもらったりしてわくわくどきどきするような経験を積み重ねることで、身につくのではないのでしょうか。乳児園児は公共図書館でのおはなし会に参加し、小学校では先生方が朝1冊の絵本でも、物語なら数ページを毎日読んであげること、落ち着いた気持ちで学校生活の1日がスタートできると思います。中高生はお互いおすすめの本を紹介しあえるような図書委員会活動が積極的に行えるとよいと思います。また学校図書館は古く傷みがある本が多いようです。なかなかそのような本を今の子は手にとらないかもしれません。新しい本を入れて古い本と入れ替えていくことで学校図書館がうまく活用されていくように思います。タブレットでのネット上の情報だけを活用するのではなく、きちんと調べられた本や図鑑などを活用する力もつけて欲しいと思います。学校の先生方も積極的に学校図書館を利用して、本の話をしたり本を読んでいる姿を子供達にみせて読書の楽しさを伝えて欲しいです。
- ・各学校の学校図書を購入する予算を確実に確保してほしい。全ての図書館に、子どもの興味がある本をすぐに置けるようにしてほしい。
- ・今どき世代の子どもたちは、紙媒体の本を読むのを嫌う傾向があるように感じる。小学校で試験的に導入された Motto Sokka を継続的に利用できるようにしてほしい。試験的に導入されていた時は読書嫌いな子どもも夢中になって読んでいた。

○家庭に関すること

- ・赤ちゃんの時から本に親しめる環境が大切
- ・子供（特に10才以下）の子供にスマホを使わせない

○その他

- ・話題の本（受賞作品、新聞やCMで紹介された本）を購入して欲しい
- ・新刊をもっと多く購入してほしい
- ・もっとたくさんの本を読んでいろんな世界を知りたい



読書活動調査結果(幼稚園・保育園・認定こども園)

幼稚園	蔵書冊数	年間購入冊数	貸出	貸出冊数	貸出期間	「読み聞かせ」「おはなし会」	園だより	読書活動の記載	「子ども読書の日」「読書週間」行事
A幼稚園	100	0	×	—	—	○	○ 年12回	×	×
B幼稚園	1,000	100	×	—	—	○	○ 年13回	○	×
C幼稚園	約200	約50	×	—	—	○	○ 年12回	○	○
D幼稚園	約2,000	約15	×	—	—	○	○ 年約35回	×	○
E幼稚園	4,500	100~200	○	40	7日間	○	○ 年12回	×	○

保育園	蔵書冊数	年間購入冊数	貸出	貸出冊数	貸出期間	「読み聞かせ」「おはなし会」	園だより	読書活動の記載	「子ども読書の日」「読書週間」行事
A保育園	1,322	80	○	6	7日間	○	○ 年12回	○	×
B保育園	1,277	84	○	10	7日間	○	○ 年12回	○	×
C保育園	約1,240	72	○	12	7日間	○	○ 年12回	○	×
D保育園	927	182	○	10	5日間	○	○ 年12回	○	×
E保育園	3,000	85	○	10	7日間	○	○ 年12回	○	×
F保育園	約1,050	120	○	10	7日間	○	○ 年12回	○	×
G保育園	1,290	110	○	10	5日間	○	○ 年12回	×	×
H保育園	997	73	○	8	6日間	○	○ 年12回	○	×
I保育園	1,650	150	○	12	5日間	○	○ 年12回	○	×

認定こども園	蔵書冊数	年間購入冊数	貸出	貸出冊数	貸出期間	「読み聞かせ」「おはなし会」	園だより	読書活動の記載	「子ども読書の日」「読書週間」行事
Aこども園	約1,500	50	×	—	—	×	○ 年12回	×	×
Bこども園	100	10	×	—	—	○	○ 年13回	×	×
Cこども園	約900	10~20	×	—	—	○	○ 年11回	×	×
Dこども園	3,600	600	×	—	—	○	○ 年6回	○	○

注1)蔵書冊数及び年間購入冊数は、令和4年度実績

注2)○ 実施

× 未実施

読書活動調査結果(小学校・中学校・市内公立高校)

小学校	蔵書冊数	年間購入冊数	開館時間	施錠の有無	貸出	一人あたりの貸出冊数	貸出期間	貸出条件	「読み聞かせ」等の実施	朝読書	保護者向け講座	情報発信	「子ども読書の日」 「読書週間」行事
A小学校	12,868	178	2限後放課、昼放課	開館時間以外常に施錠している	○	12.5	7日間	通常1回1冊、長期休業中は2冊	①	×	×	○	○
B小学校	11,566	141	2限後放課、昼放課	一定時間のみの施錠している	○	7.5	7日間	通常1回1冊、長期休業中は夏期3冊、冬期2冊	①、②、③	×	×	×	○
C小学校	10,503	102	2限後放課、昼放課	施錠していない	○	12.5	7日間	通常1回1冊、長期休業中は2冊	①、③	×	×	○	○
D小学校	8,082	203	2限後放課、昼放課	施錠していない	○	7.4	7日間	通常1回1冊、長期休業中は2冊	①、②、③	×	×	-	○
E小学校	8,740	40	2限後放課、昼放課	開館時間以外常に施錠している	○	5.2	7日間	通常1回1冊、長期休業中(夏のみ)2冊	①、③	○	○	×	○
F小学校	10,529	218	昼放課	開館時間以外常に施錠している	○	17.9	14日間	通常1回1冊、長期休業中は2冊	①、③	○	○	○	○
G小学校	7,808	200	2限後放課、昼放課	開館時間以外常に施錠している	○	16.5	7日間	通常1回1冊、長期休業中は2冊 長期休業中の貸出は現在実施していない	①、③	×	×	×	○
H小学校	9,480	48	2限後放課、昼放課	14時～翌日8時のみ施錠している	○	2.7	7日間	通常1回1冊、長期休業中は2冊	①	○	×	×	○
I小学校	13,320	721	2限後放課、昼放課	開館時間以外常に施錠している	○	14.0	14日間	通常、長期休業中ともに1回2冊	①	×	×	×	○
J小学校	11,150	191	2限後放課、昼放課	施錠していない	○	11.2	7日間	通常1回1冊、長期休業中は2冊	①	×	×	×	×
K小学校	14,995	161	2限後放課、昼放課	開館時間以外常に施錠している	○	9.6	7日間	通常1回1冊、長期休業中は2冊	①、③	×	×	×	×
L小学校	12,129	96	2限後放課、昼放課	開館時間以外常に施錠している	○	10.0	7日間	通常1回1冊	①、②、③	×	×	×	○

中学校	蔵書冊数	年間購入冊数	開館時間	施錠の有無	貸出	一人あたりの貸出冊数	貸出期間	貸出条件	「読み聞かせ」等の実施	朝読書	保護者向け講座	情報発信	「子ども読書の日」 「読書週間」行事
A中学校	12,197	211	昼放課	開館時間以外常に施錠している	○	0.8	7日間	通常、長期休業中ともに1回2冊	②	×	×	○	×
B中学校	8,363	207	昼放課	開館時間以外常に施錠している	○	2.0	7日間	通常、長期休業中ともに1回2冊	×	×	×	×	×
C中学校	15,049	242	昼放課	開館時間以外常に施錠している	○	1.0	7日間	通常1回1冊、長期休業中は2冊	②	×	×	○	○
D中学校	12,951	109	昼放課	開館時間以外常に施錠している	○	1.0	7日間	通常1回1冊、長期休業中は2冊	×	×	×	×	×
E中学校	9,797	290	昼放課	開館時間以外常に施錠している	○	2.2	7日間	通常、長期休業中ともに1回2冊	②	×	×	×	×

高校	蔵書冊数	年間購入冊数	開館時間	施錠の有無	貸出	一人あたりの貸出冊数	貸出期間	貸出条件	「ブックトーク」等の実施	朝読書	保護者向け講座	情報発信	「子ども読書の日」 「読書週間」行事
A高校	18,118	320	昼放課、～16:55	17時～翌日8時のみ施錠している	○	1.3	14	通常1回3冊、長期休業中は冊数無制限	②	年2回 数日間	×	○	○
B高校	27,817	254	昼放課、授業後	開館時間以外常に施錠している	○	1.2	14	通常、長期休業中ともに冊数無制限	②、③	×	×	○	×

注1) 蔵書冊数及び年間購入冊数は、令和4年度実績

注2) ○ 実施
× 未実施

注3) 小学校

①読み聞かせ、おはなし会
②ブックトーク
③学校図書館利用のオリエンテーション

注4) 中学校及び高校

①ブックトーク
②学校図書館のオリエンテーション
③ビブリオバトル

読書活動調査結果(児童館)

児童館	蔵書冊数	年間購入冊数	貸出	貸出冊数	貸出期間	「読み聞かせ」「おはなし会」	館だより	読書活動の記載	「子ども読書の日」「読書週間」行事
A児童館	1,136	25	○	0.2	7日間	○	○ 年12回	○	○
B児童館	2,147	40	○	0.2	7日間	○	○ 年12回	×	×
C児童館	4,027	26	○	1.9	7日間	○	○ 年12回	○	×
D児童館	3,671	42	○	1.9	7日間	○	○ 年12回	○	×
E児童館	1,937	20	○	2.0	7日間	○	○ 年12回	×	×
F児童館	3,218	42	○	1.8	7日間	○	○ 年12回	○	×

注1)蔵書冊数及び年間購入冊数は、令和4年度実績

注2)○ 実施

× 未実施

問 12・13 図書に関する情報発信を行っていますか。（行っている場合は対象・頻度がわかるよう内容をお書きください。）

①小学校（問 13）

- ・新しく本を購入した時
- ・学校のホームページに図書館の様子を紹介している。今月のおすすめ図書などの紹介。
- ・委員会の活動として紹介している。

②中学校（問 13）

- ・図書館内での掲示
- ・新規図書やオススの図書の紹介を、委員会で作成し教室掲示をしている。

③高校（問 12）

- ・生徒・保護者向けに年 5 回図書館通信を発行している。図書館通信と文化祭などの行事をホームページで発信している。
- ・生徒向けに、年 2 回図書館だよりを発行しています。（P4 の冊子）年 8 回「ビブリオワールド」（図書だより）を発行しています。（A4 プリント 1 枚）随時新刊案内を掲示しています。

問 8・13・14 子ども読書の日（4 月 23 日）や読書週間（10 月 27 日～11 月 9 日）に、図書館や読書に関する行事を行っていますか。

①幼稚園・保育園・認定こども園（問 8）

- ・行事というほどではないかもしれませんが、子どもたちに読書週間をお知らせして普段以上に保育内で「読み聞かせ」や「読書タイム」を設けたり、美和図書館の方にご来園いただいたりして、読書意欲を高めています。
- ・園内の読書コーナーで好きな絵本を選んで開いてみるということをしている。また年長児には、なぜその絵本を選んだのか等、読んだ感想を発表する機会を作っている。
- ・青少年によい本をすすめる県民運動に参加
- ・毎日行っています（司書が中心となり）

②小学校（問 14）

- ・昨年度はスタンプラリーを委員会で企画し、全校でたくさんの児童が参加し、読書に親しんでいた。
- ・読書週間におすすめの本を紹介したり、スタンプカードを作って本を借りてもらえるようにする。
- ・読書キャンペーン（秋のみ）
- ・読書祭り
- ・図書委員会児童による読み聞かせ
- ・委員会の活動として貸出の数を集計
- ・給食放送での図書委員による本の朗読
- ・図書委員による企画（スタンプラリー、ビンゴなど）、美和図書館より本を 90 冊ほどお借りする
- ・図書委員会で各クラスに行き、読み聞かせをしている。
- ・委員会による読書ビンゴの企画・実施等

③中学校（問14）

- ・ポスターを委員会で作成し、教室掲示している。

④高校（問13）

- ・読書週間中に「お楽しみ抽選会」を行っている。本を貸出した生徒に抽選で学校で定期購入している雑誌のふろくなどを配布している。
- ・今から新しい試みをしてみようと計画中です。

⑤児童館（問8）

- ・乳幼児親子行事で読み聞かせを行う。

問9 特筆すべき読書活動があればお書きください。

①幼稚園・保育園（問9）

- ・特筆かどうかはわかりませんが、絵本の貸し出しをしています。今は、クラス毎に一斉で貸し出しをしています。保護者や子どもが借りたい時に借りられるような仕組みにしたいと思っています。
- ・美和地区は図書館見学に毎年5歳児が園外保育の目的地として行っています。園ではどの年齢でも貸し出し絵本を行っていましたが、コロナ禍で中止しています。
- ・毎月読書の日をもうけ、大型絵本等子ども達が楽しめる絵本を読む。
- ・活動まではいきませんが、個人的に子どもたちに読み聞かせを行っている職員もいます。また、季節や行事など折に触れ定期的に紙芝居や本などで知らせています。
- ・毎日朝の会等で読み聞かせを行っている。
- ・図書館だよりを年間6回発行しています。また、コンクールに読書感想画を出しています。

②児童館（問9）

（記入なし）

問14・15 学校全体で取り組まれている読書活動があればお書きください。

②小学校（問15）

- ・図書委員会による読書キャンペーン（しおりのプレゼント）
- ・保護者ボランティアによる月1回の朝の読み聞かせ
- ・教師による読みきかせ（全学年）、読書タイムの設定（週2回）、PTA・図書館員ボランティアによる読み聞かせ（週1回）
- ・人権週間に、全学級で担任による人権意識を高める本の読み聞かせを実施している

③中学校（問15）

- ・委員会でキャンペーンを半期に1回ずつ行っている。
- ・委員会活動において、おすすめ本紹介カードを作成し、図書室に掲示している。
- ・全校を対象としての朝読書

④高校（問14）

- ・年に2回、1・2年生対象に「朝の読書」タイム（15分程度×数日）が設定されている。図書委員による本の紹介ポスターの作成・掲示も行っている。

- ・行事としては、全体のものはありません。1・2年生に夏の読書感想文を課しています。また、先生方のお薦め本の冊子を教室に掲示しています。

問 15・16 学校の授業の中で学校図書館を利用することがありますか。

①小学校（問 16）

- ・調べ学習、図工や生活科の工作の時に関連する本を活用
- ・調べ学習、ブックトーク
- ・3年、としょかんたんてい隊
- ・国語の授業でブックトーク・アニメーションを行っている
- ・各教科の調べ学習、国語科の図書館の利用の仕方についての学習
- ・本の貸出し、国語の授業での活用
- ・総合学習における調べ学習で利用している
- ・調べ学習で利用する、自習で好きな本を読む取り組みで利用する
- ・調べ学習時に使用している。
- ・調べ学習、国語の授業で本の紹介をする内容がある場合
- ・教科書の内容に応じて使用
- ・調べ学習、図書室利用指導、本の分類についての学習、読書の時間等

②中学校（問 16）

- ・百人一首大会、国語の授業で辞書の引き方についての確認
- ・調べ学習（総合的な学習の時間、国語の授業など）
- ・調べ学習

③高校（問 15）

- ・図書館の大きい机を利用し、百人一首大会などを行うことがある。
- ・いつでも利用できるようになっていました。（予約制）2クラスまで合同授業もできます。コロナ禍では自粛していました。

問 10・16・17 市内図書館・図書室・読書室に対するご意見、ご要望があればお書きください。

①幼稚園・保育園（問 10）

- ・園から美和図書館が近いので、読み聞かせ活動はもちろん、子どもたちと図書館へ行く園外活動等も保育の中で取り入れていきたいと思えます。今後ともよろしく願いたします。
- ・いつも読み聞かせに来ていただき、おもしろい本を教えてもらったり、楽しく読み聞かせしていただいています。絵本に関する植物を持ってきてくださり見せてもらったり、ちょっとした手遊びやわらべうた等も歌っていただき、保育士とは違った雰囲気を楽しませてもらっています。
- ・美和図書館見学に旧美和地区しか行ってないが、あま市として他地区も行けると良いと思えます。要望すれば行かせていただけるのでしょうか？

②小学校（問 17）

- ・夏休みにあった研修会は、新しいことを教えてもらい有意義でした。ありがとうございました。
- ・蔵書の充実と、小中学校への巡回等による貸し出しをしていただきたい。

③中学校（問 17）

（記入なし）

④高校（問 16）

- ・甚目寺・七宝・美和が合併してからも図書館は現状のままである。最近の図書館は、本の貸借だけの機能だけではなく、世代を超えた人々の集まる場所としてのはたらきも求められていると思うので、あま市にもそのような図書館ができるといいなと思います。
- ・ぜひ地域の図書館と連携して、新たな試みをしてみたいと思っています。お知恵をお貸しください。

⑤児童館（問 10）

（記入なし）



○子どもの読書活動の推進に関する法律

(平成十三年十二月十二日)

(法律第百五十四号)

第百五十三回臨時国会

第一次小泉内閣

子どもの読書活動の推進に関する法律をここに公布する。

子どもの読書活動の推進に関する法律

(目的)

第一条 この法律は、子どもの読書活動の推進に関し、基本理念を定め、並びに国及び地方公共団体の責務等を明らかにするとともに、子どもの読書活動の推進に関する必要な事項を定めることにより、子どもの読書活動の推進に関する施策を総合的かつ計画的に推進し、もって子どもの健やかな成長に資することを目的とする。

(基本理念)

第二条 子ども(おおむね十八歳以下の者をいう。以下同じ。)の読書活動は、子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものであることにかんがみ、すべての子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において自主的に読書活動を行うことができるよう、積極的にそのための環境の整備が推進されなければならない。

(国の責務)

第三条 国は、前条の基本理念(以下「基本理念」という。)にのっとり、子どもの読書活動の推進に関する施策を総合的に策定し、及び実施する責務を有する。

(地方公共団体の責務)

第四条 地方公共団体は、基本理念にのっとり、国との連携を図りつつ、その地域の実情を踏まえ、子どもの読書活動の推進に関する施策を策定し、及び実施する責務を有する。

(事業者の努力)

第五条 事業者は、その事業活動を行うに当たっては、基本理念にのっとり、子どもの読書活動が推進されるよう、子どもの健やかな成長に資する書籍等の提供に努めるものとする。

(保護者の役割)

第六条 父母その他の保護者は、子どもの読書活動の機会の充実及び読書活動の習慣化に積極的な役割を果たすものとする。

(関係機関等との連携強化)

第七条 国及び地方公共団体は、子どもの読書活動の推進に関する施策が円滑に実施されるよう、学校、図書館その他の関係機関及び民間団体との連携の強化その他必要な体制の整備に努めるものとする。

(子ども読書活動推進基本計画)

第八条 政府は、子どもの読書活動の推進に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画(以下「子ども読書活動推進基本計画」という。)を策定しなければならない。

2 政府は、子ども読書活動推進基本計画を策定したときは、遅滞なく、これを国会に報告するとともに、公表しなければならない。

3 前項の規定は、子ども読書活動推進基本計画の変更について準用する。

(都道府県子ども読書活動推進計画等)

第九条 都道府県は、子ども読書活動推進基本計画を基本とするとともに、当該都道府県における子どもの読書活動の推進の状況等を踏まえ、当該都道府県における子どもの読書活動の推進に関する施策についての計画(以下「都道府県子ども読書活動推進計画」という。)を策定するよう努めな

なければならない。

- 2 市町村は、子ども読書活動推進基本計画(都道府県子ども読書活動推進計画が策定されているときは、子ども読書活動推進基本計画及び都道府県子ども読書活動推進計画)を基本とするとともに、当該市町村における子どもの読書活動の推進の状況等を踏まえ、当該市町村における子どもの読書活動の推進に関する施策についての計画(以下「市町村子ども読書活動推進計画」という。)を策定するよう努めなければならない。
- 3 都道府県又は市町村は、都道府県子ども読書活動推進計画又は市町村子ども読書活動推進計画を策定したときは、これを公表しなければならない。
- 4 前項の規定は、都道府県子ども読書活動推進計画又は市町村子ども読書活動推進計画の変更について準用する。

(子ども読書の日)

第十条 国民の間に広く子どもの読書活動についての関心と理解を深めるとともに、子どもが積極的に読書活動を行う意欲を高めるため、子ども読書の日を設ける。

- 2 子ども読書の日は、四月二十三日とする。
- 3 国及び地方公共団体は、子ども読書の日の趣旨にふさわしい事業を実施するよう努めなければならない。

(財政上の措置等)

第十一条 国及び地方公共団体は、子どもの読書活動の推進に関する施策を実施するため必要な財政上の措置その他の措置を講ずるよう努めるものとする。

附 則

この法律は、公布の日から施行する。

○ 衆議院文部科学委員会における附帯決議

政府は、本法施行に当たり、次の事項について配慮すべきである。

- 一 本法は、子どもの自主的な読書活動が推進されるよう必要な施策を講じて環境を整備していくものであり、行政が不当に干渉することのないようにすること。
- 二 民意を反映し、子ども読書活動推進基本計画を速やかに策定し、子どもの読書活動の推進に関する施策の確立とその具体化に努めること。
- 三 子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において、本と親しみ、本を楽しむことができる環境づくりのため、学校図書館、公共図書館等の整備充実に努めること。
- 四 学校図書館、公共図書館等が図書を購入するに当たっては、その自主性を尊重すること。
- 五 子どもへの健やかな成長に資する書籍等については、事業者がそれぞれの自主的判断に基づき提供に努めるようにすること。
- 六 国及び地方公共団体が実施する子ども読書の日の趣旨にふさわしい事業への子どもの参加については、その自主性を尊重すること。

○あま市子ども読書活動推進計画策定委員会要綱

平成30年3月22日

教委告示第6号

(設置)

第1条 子どもの読書活動の推進に関する法律(平成13年法律第154号)第9条第2項の規定に基づきあま市子ども読書活動推進計画(以下「推進計画」という。)を策定するに当たり、市民等から広く意見を聴取するため、あま市子ども読書活動推進計画策定委員会(以下「委員会」という。)を設置する。

(所掌事務)

第2条 委員は、次に掲げる事項について、意見を述べるものとする。

- (1) 推進計画の策定に関すること。
- (2) 委員会の運営に関すること。
- (3) 前2号に掲げるもののほか、教育委員会が必要と認める事項

(組織)

第3条 委員会は、委員10人以内で組織する。

(構成)

第4条 委員は、次に掲げる者で構成する。

- (1) 学識経験者
- (2) ボランティア代表
- (3) 教育関係者代表
- (4) 関係機関代表
- (5) その他教育委員会が必要と認める者

(任期)

第5条 委員の任期は、教育委員会が依頼した日から推進計画が策定される日までとする。

(委員長及び副委員長)

第6条 委員会に委員長及び副委員長を置き、委員の互選によりこれを定める。

2 委員会の会議は、委員長が議長となる。

3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第7条 委員会は、委員長が招集する。

(専門部会)

第8条 委員会は、必要に応じて委員会に専門部会を置くことができる。

(庶務)

第9条 委員会の庶務は、教育委員会事務局教育部生涯学習課において処理する。

(その他)

第10条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が委員会に諮って定める。

附 則

この告示は、平成30年4月1日から施行する。

あま市子ども読書活動推進計画策定委員会名簿

(順不同)

職名	氏名	備考
大学関係者	三輪 昭子	委員
美和図書館運営協議会代表	内藤 美千代	委員
読書ボランティア代表	山口 陽子	委員
市内小中学校図書館担当教諭代表	飯田 奈々	委員
幼稚園代表	桑野 克好	委員
教育部長	鎌倉 崇志	委員
子ども福祉課長	佐藤 尚	委員 (~令和5年9月9日)
子ども健康部長兼子ども福祉課長	樋口 誠史	委員 (令和5年9月10日~)
子ども健康部次長兼健康推進課長	吉川 史高	委員
保育課長	林 一史	委員
学校教育課長	寺澤 直樹	委員
教育長	伊藤 克仁	事務局
生涯学習課長	内山 伸也	事務局
生涯学習課主幹	近藤 博	事務局
生涯学習課主幹	濱嶋 直樹	事務局
生涯学習課担当	上村 希美香	事務局

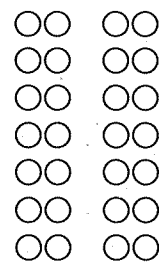
あま市子ども読書活動推進計画作業部会名簿

(順不同)

職名/(勤務先)	氏名	備考
保育課保育士長	山本 正子	
子ども福祉課係長/(美和児童館)	杉山 喜子	
健康推進課課長補佐/(基目寺保健センター)	橋本 知美	
学校教育課主幹	水野 賢太郎	
美和図書館副館長	青木 薫	
生涯学習課主幹	近藤 博	
生涯学習課主幹	濱嶋 直樹	
生涯学習課主査/(七宝公民館)	山田 茉衣子	
生涯学習課主任/(基目寺公民館)	渡邊 彩希	
生涯学習課主事	上村 希美香	

【表紙絵及びイラスト】

愛知県立美和高等学校 生徒



※本計画の掲載内容（イラスト、文章等）の一部及び全てを、
無断で複製、転載、転用、改変等することはご遠慮ください。

第3次 あま市子ども読書活動推進計画

発行元：あま市教育委員会

編集：あま市教育部生涯学習課

発行：令和6（2024）年4月

部数：300部

所在：〒497-0001

愛知県あま市七宝町沖之島深坪1番地
あま市役所 生涯学習課

